

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

～石狩市における調査結果の概要～

この調査結果は、国及び北海道が公表した「平成26年度全国学力・学習状況調査～調査結果のポイント」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語、算数・数学）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度から21年度、平成25年度および本年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度、平成24年度は抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となりました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成26年 4月22日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校） 511名 中学校 8校（市内全校） 481名

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)			国語B(主として「活用」に関する問題)		
	平均正答数	平均正答率		平均正答数	平均正答率	
全 国(公立)	10.9問/15問	72.9%		5.5問/10問	55.6%	
全 道(公立)	10.3問/15問	71.8%		5.3問/10問	52.9%	

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ)同等 (上位)	同 様	(ほぼ)同等 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ)同等 (上位)	同 様	(ほぼ)同等 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				○									★	○				
全 国 : ☆				★									★	○				

相当高い … 7ポイント以上の範囲

高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内

やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内

ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内

同 様 … ±1ポイント未満の範囲内

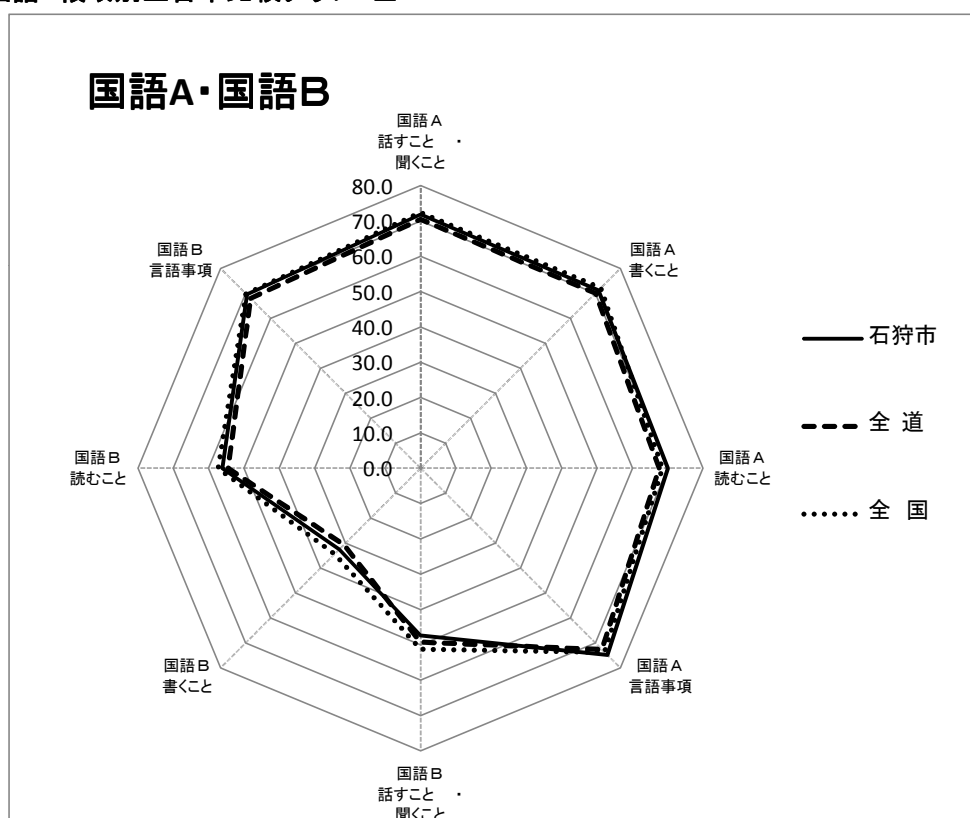
ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内

やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内

低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内

相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 国語 領域別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 国語Aの正答率は大きく伸び、全道・全国を上回りました。国語Bについては、全道を上回りましたが、全国を下回りました。
- 故事成語の意味や使い方を理解することに成果が見られ、全道・全国平均正答率を上回りました。
- 無解答率についても改善が見られ、全道・全国に比べ、低い結果となりました。
- 国語B「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は、全道・全国に比べ、低い結果となりました。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

以下に示す内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・ 故事成語の意味や使い方を理解する。
- ・ 物語を創作する際、情景描写の効果を捉える。
- ・ 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える。
- ・ 話合いの観点に基づいて情報を関係付ける。

設問数は、15問です。

【各領域別傾向】

- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国に比べ同様の傾向を示しています。
- ・ 「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「読むこと」の領域は、全道や全国と比べて、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。
- ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道や全国と比べて、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	7 話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	71.8%	70.5%	72.4%
書くこと	6 2 仮定の表現として、適切なものを捉える	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	86.1%	81.4%	83.1%
読むこと	4 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	75.3%	72.4%	71.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 2 (3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (かぜをよぼうする)	80.8%	75.0%	77.4%
	2 1 故事成語の意味と使い方を理解する	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	71.8%	61.6%	55.8%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	3 情景描写の効果を捉える	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	53.8%	56.2%	58.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 1 (2) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	漢字を読む (街灯がつく)	82.4%	86.5%	87.0%

〈指導の改善にあたって〉

・ 情景描写を正しく理解し、その効果を捉えることに、課題が見られます。授業において、「行動や表現」「会話（内言）」「風景」等の描写の工夫の効果を理解することができるよう指導する必要があります。また、登場人物の心情などについては、直接的に表現されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるよう指導することも必要になります。

・ 国語辞典を使った検索の仕方に、課題が見られます。国語辞典の日常の活用を促すとともに、より多くの語彙の習得を図る必要があります。

・ 漢字については、繰り返し何回も使う場面を確保することが大切となります。学年で習う漢字は、学年内で定着を図ることを原則に、漢字の反復練習の機会を確保する必要があります。

国語 B （主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題で構成されています。

- ・討論会を計画的に進めるために、司会は観点を整理したり、参加者は立場を明確にして質問や意見を述べたりする。
- ・科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを関係付けながらまとめる。
- ・二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉え、自分の考えを書く。

設問数は、10問です。

【各領域別傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道や全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「書くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「読むこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べ同様の傾向を示しております。

【成果の見られる設問例】

出題の趣旨			設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
領 域						
書くこと	3 三	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	【詩１】と【詩２】を比べて読んだことを書く	49.1%	42.7%	48.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	3 一 (1)	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	【詩１】の表現の特徴として適切なものを選択する	82.8%	79.4%	80.4%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 一	目的に応じて、話合いの観点を整理する	司会発言の内容をまとめて書く	59.3%	62.5%	66.2%
書くこと	2 二	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	付箋の内容を関係付けて、まとめて書く	22.1%	22.5%	26.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・「話すこと・聞くこと」については、「目的に応じて、話合いの観点を整理する」ことに課題が見られます。全員が司会の役割を経験する機会を設けるなど、具体的に指導していくことが必要です。
- ・「読むこと」の「詩の解釈における着眼点の違いを捉えること」に課題が見られます。自分の考えと相手の考えを比較しながら、どのような点が共通していたり、相違していたりしているかを考えながら交流することができるように指導する必要があります。

教科に関する意識 （質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度までと同様高い傾向が続いています。全国59.2%，全道59.9%に対して石狩市は60.2%で、それぞれ全国よりも1.0ポイント、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答についても、高い傾向が続いています。全国91.8%，全道91.7%に対して、石狩市は93.9%で、それぞれ全国よりも2.1ポイント、全道よりも2.2%高い結果となっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より改善され、全国・全道と同様の傾向を示しています。全国80.1%，全道79.3%に対して石狩市は79.5%と、全国よりも0.6ポイント低く、全道比0.2ポイント高い結果となりました。

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

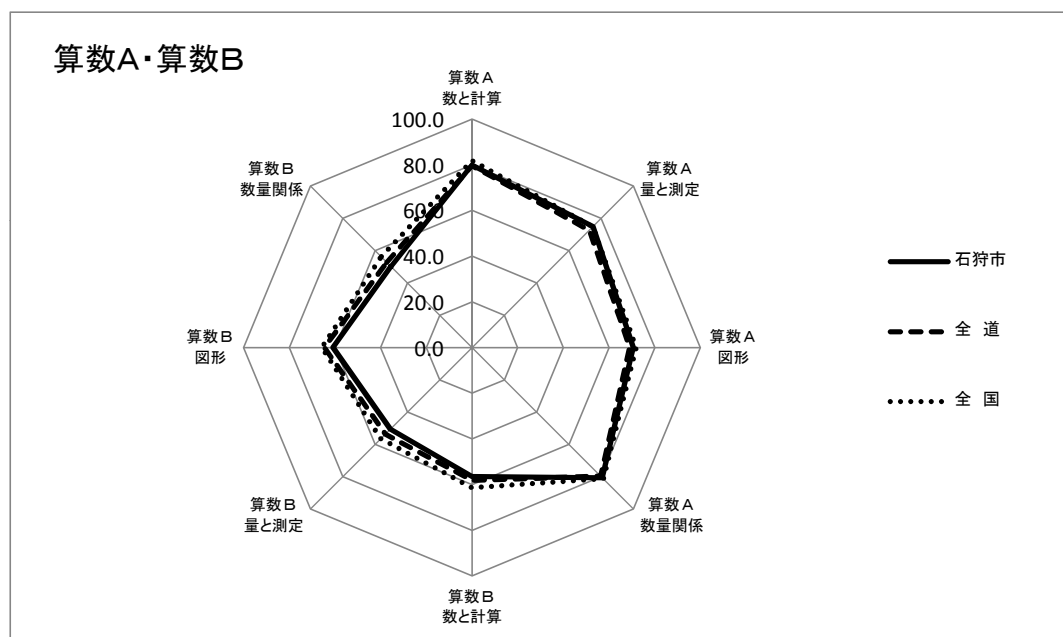
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	13.3問/17問	78.1%	7.6問/13問	58.2%
全 道(公立)	12.9問/17問	75.8%	7.2問/13問	55.2%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆				○								☆			○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 市内各校の正答率については、全道と全国との差が縮小する傾向が続いています。
- 無解答率については、A問題では全国・全道より少なく、B問題では全道より少なく全国よりも若干多い結果でした。
- 昨年に引き続き、四則計算については改善が見られます。しかし、小数を使う計算問題には誤答が見られることから、繰り返して定着を図る指導が必要です。
- 時刻を求める計算に、課題が見られました。時刻や時間の学習を扱う学年はもとより他の学年においても、活動に関連付けて扱う必要があります。

算数 A（主として「知識」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・示された図から規準量と割合を読み取り，比較量を求める式として正しいものを選ぶ。
 - ・単位量当たりの大きさを求める式を書く。
 - ・作図に用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ。
 - ・四則の混合した式で求められる問題を選ぶ。
- 設問数は17問です。

【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しております。
- ・「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べ同様の傾向を示しております。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べほぼ同様（下位）傾向を示しております。
- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べ同様の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	1 (4) 商が小数になる除法の計算をすることができる	$2 \div 5$ を計算する	93.2%	90.4%	91.8%
量と測定	5 (2) 体積の単位（ 1 m^3 ）と測定について理解している	1 m^3 の立方体を基に，示された直方体の体積を求める	84.1%	79.1%	81.1%
図 形	7 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	縦5 cm，横1 cm，高さ4 cmの直方体の一つの面になる四角形を選ぶ	71.0%	67.7%	69.4%
数量関係	8 四則の混合した式の意味について理解している	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ	82.2%	79.5%	81.0%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	2 (2) 割合が1より小さい場合でも，比較量の求め方が（規準量） $\times$ （割合）になることを理解している	示された図を基に，赤いテープの長さが白いテープの長さ（80 cm）の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	46.2%	49.2%	54.1%
図 形	6 作図にも用いられている図形の約束や性質を理解している	コンパスを使った平行四辺形の書き方について，用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	45.6%	47.2%	52.0%

〈指導の改善にあたって〉

・「数と計算」では，「割合」「比較量」「規準量」の関係式の理解・活用に課題が見られます。理解を深めるため例題を効果的に演習させる等の授業改善や，定着を図るため家庭学習での反復学習が効果的と考えられます。

・「図形」では，これまで，定規や分度器等の道具の使い方が課題として，指摘されてきました。今回の調査では，「コンパス」の使い方が課題として浮かび上がりました。日常の指導ノート指導において作図の際にコンパス、定規等の正しい使い方を指導するとともに，図形の性質や約束についての知識・理解をより深める必要があります。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・示された計算の決まりを基に、工夫して計算する方法を記述する。
- ・最大値に着目して、グラフに表すことができない理由を記述する。
- ・公倍数に着目して、3つの数量の関係を記述する。
- ・示された情報を基に筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する。

設問数は13問です。

【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ低い傾向を示しております。
- ・「量と測定」の領域は、全道とやや低く、全国と比べ低い傾向を示しております。
- ・「図形」の領域は、全道・全国共にやや低い傾向を示しております。
- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
量と測定	2 (1)	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	6・7月の水の使用量1500m ³ , プールに入る水の量250m ³ の何倍かを求める式と答えを書く	79.9%	82.5%
数と計算	3 (2)	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	54.2%	56.7%
数量関係	4 (1)	繰り返されるリズムの規則性（周期）を見だし、それを基に小節数を求めることができる	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	59.7%	62.2%

【課題の見られる設問例】

領 域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
量と測定	3 (1)	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	35.1%	38.6%
図 形	5 (1)	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	64.6%	65.7%
数量関係	2 (3)	全体と部分の関係を示すために用いられるグラフを選択することができる	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	61.8%	61.5%

〈指導の改善にあたって〉

- ・示された情報を基に条件に合う時間を求めることに課題があります。情報を図の中に表し整理し、筋道を立てて考えたり、図と式をあわせて考えたりすることで、時間の増減の実感を捉えられる指導が必要です。
- ・目的に応じて表やグラフを選択することに課題があります。授業の中で、表やグラフを関連付けて読み取ったり、判断するなどの活動を十分に行って定着を図る必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国66.1%、全道64.0%に対して石狩市は64.3%で、全国よりも1.8ポイント低く、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国92.3%、全道91.1%に対して石狩市は91.4%で、全国よりも0.9ポイント低く、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国79.6%、全道76.8%に対して、石狩市は78.9%で、全国よりも0.7ポイント低く、全道よりも2.1ポイント高い結果となっています。

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

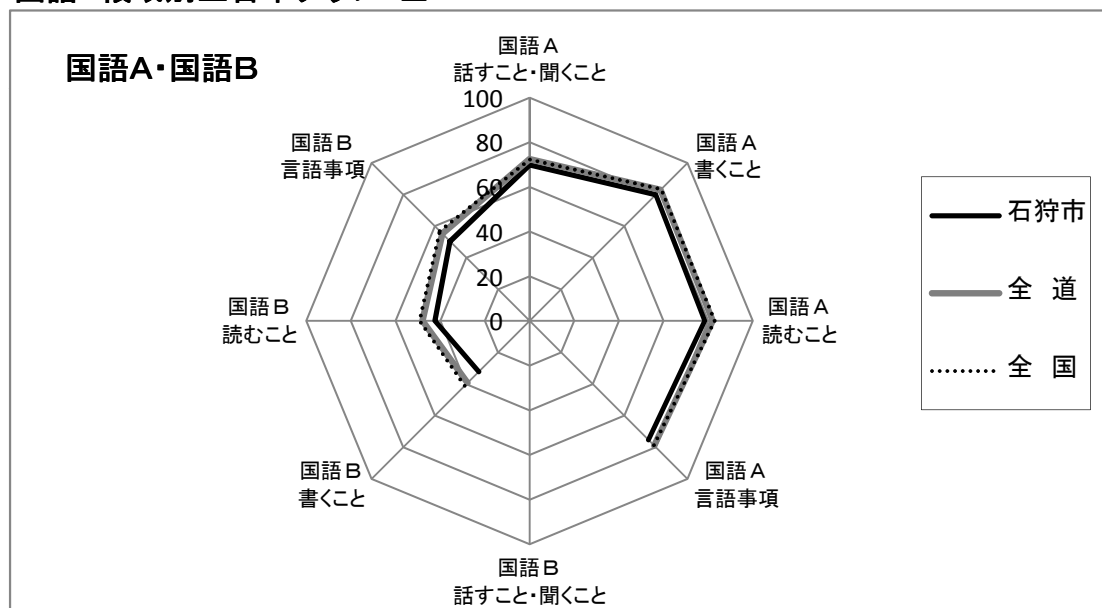
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	25.4問/32問	79.4%	4.6問/9問	51.0%
全 道(公立)	25.4問/32問	79.4%	4.5問/9問	49.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全 国 ; ☆					☆		○						☆				○	

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 漢字・語句等はほぼ定着しており、日常的に活用に努めることが必要です。
- 順序立てて考え、相手の立場に立ってわかりやすく説明することが課題です。
- 自分の考えを整理し、適切な表現で書くことが課題です。
- 問題形式により回答率に差があり、記述式の無回答率が高くなっています。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する定着度をみる問題で構成されています。

各問題は出題の趣旨が学習指導要領の一つの指導事項に対応することが基本とされ、また、3領域1事項の全てからの出題となるように留意されています。
設問数は32問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国とほぼ同様です。
- ・「書くこと」の領域は全道・全国よりやや低く、課題があります。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国よりやや低く、課題があります。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に関しては、全道・全国よりやや低いものの、日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えます。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]のうち、基本的な漢字の「書き」は全道・全国より低く、「読み」についてはやや低い結果です。それぞれに課題があります。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	6 一 話し合いの司会の役割を果たす	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものの選択	76.3%	75.5%	76.0%
書くこと	4 一 集積材料の整理	項目として適切なものの選択	92.3%	92.6%	92.6%
漢字の 読み 書き	8 一 漢字を書く	3 「ウツ」す（移す）	71.5%	75.0%	73.6%
	8 二 漢字を読む	2 「音響」（オンキョウ）	86.5%	92.4%	88.6%
		3 「挑む」（イド-む）	93.3%	95.8%	95.2%
語句と 活用	8 三 理解と活用	力 あの人 は 単刀直入にものを言う	88.4%	88.5%	86.3%
	8 三 理解と活用	キ 休日にのびのびと羽を 伸ばす	94.4%	93.0%	92.1%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	6 一 互いの発言を検討する	発言を聞いて、意見の相違点を整理する。	50.1%	55.7%	54.3%
書くこと	2 二 心情にふさわしい言葉に書換え	印象深く伝えるために書き換える	71.9%	79.0%	79.8%
読むこと	3 三 言動の意味、内容の理解	主人公の心情を説明したものとして適切なものの選択	72.6%	77.3%	79.1%
漢字読み	8 二 正しく読む	1 稚魚（チギョ）を放流する	69.0%	77.5%	77.0%
語句と 活用	8 三 適切に使う	ウ 伝統的な文化を「継承」する	74.6%	80.0%	80.8%
	8 五 古典と昔話	2 古文対応の言葉を昔話から抜粋	65.9%	70.1%	71.0%

〈指導の改善にあたって〉

- ・学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で繰り返し活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- ・漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに繰り返し指導に努める必要があります。
- ・目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- ・日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり、相手の立場に立ってわかりやすく説明する指導に努める必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実践し評価・改善することができるかどうかをみる問題で構成されています。
領域が重複し、応用・発展した出題になっています。
設問数は9問です。

- ・「書くこと」の領域では、正答率が全道・全国より相当低く、また、無答率は相当高くなっており、課題があります。
- ・「読むこと」の領域では、全道・全国より低く、課題があります。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]は全道・全国より低く、課題があります。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
読むこと	3 一 必要な情報を読み取る	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	50.8%	52.8%	52.0%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	2 三 根拠を明確に自分の考えを書く	標語のメッセージ、表現の工夫とその効果を書く	37.5%	45.9%	48.2%
読むこと	2 二 必要な情報を読み取る	答が得られるものとして適切なものを選択する	51.7%	60.1%	60.9%
言語文化 国語特質	3 三 根拠を明確に自分の考えを書く	本文を根拠に人物の気持ちを想像して書く	37.1%	44.2%	46.5%

〈指導の改善にあたって〉

- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、継続して指導に努めることが大切です。
- ・目的に応じて、複数の情報から必要なものを選び取ることに課題が残ります。
基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた具体的な指導に努める必要があります。
- ・無答率は問題形式による差があり、記述式問題では全道・全国より高い傾向にあります。
文章を書くことへの抵抗感をもたせないよう指導を工夫する必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 59.7%、全国の 58.2% に対して石狩市は 61.1% で、全道に比べ 1.4ポイント、全国に比べて2.9ポイント高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 88.2%、全国の89.0 %に対して石狩市は 88.9%で、全道に比べ0.7ポイント高く、全国に比べ0.1ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 72.5%、全国の 72.0% に対して石狩市は 67.1%と、全道に比べ 5.4ポイント、全国に比べ4.9ポイント低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 73.2%、全国の 69.4% に対して石狩市は 76.0%で、全道に比べ 2.8ポイント高く、全国に比べ6.6ポイント高くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的な回答率は、いずれも全道・全国より低くなっています。

平成26年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

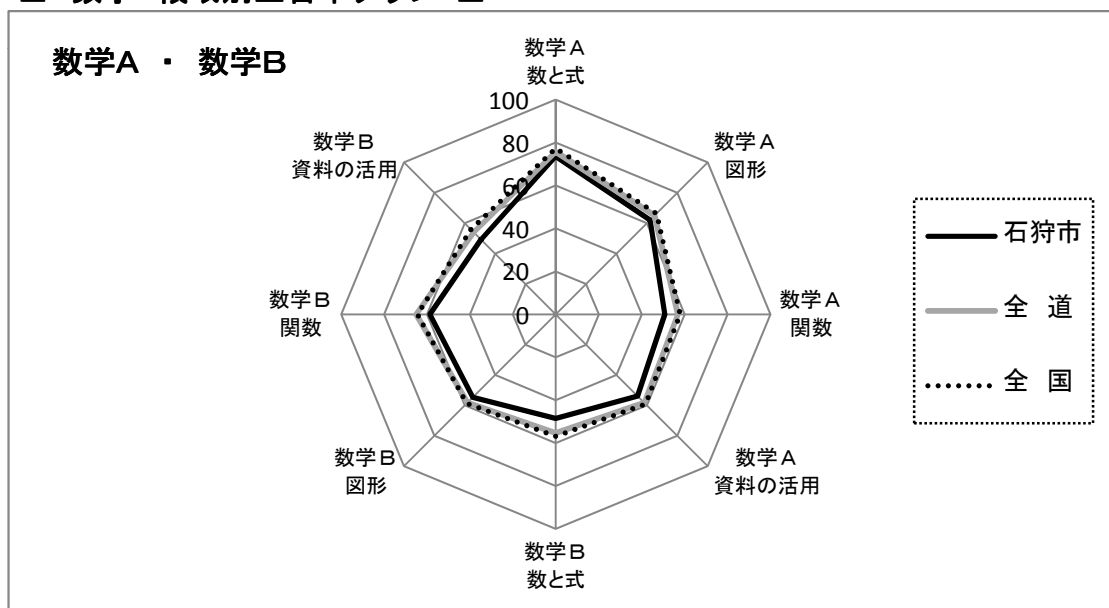
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	24. 3問／36問	67. 4%	9. 0問／15問	59. 8%
全 道(公立)	23. 8問／36問	66. 0%	8. 9問／15問	59. 4%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全 国 ; ☆				☆			○						☆				○	

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 基礎的知識の連携、資料の読み取り、論理的な思考に課題があります。
- [活用]や記述式問題形式に関しての無回答率が高く、粘り強く取り組むことに課題があります。
- 日常的な反復学習に課題があります。

数学 A（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題で構成されています。

小学校第6学年から中学校第2学年までに身に付けておくべきものに焦点化して出題されています。

設問数は36問です。

- ・「数と式」の基本的な事項は全道・全国よりやや低く、課題があります。
- ・「図形」の基礎的・基本的な知識理解は全道・全国より低く課題があります。
- ・「関数」の領域は、全道・全国より低く、課題があります。
- ・「資料の活用」の領域は、全道・全国よりやや低い結果です。数学で使われる言葉の意味や、文章・図の読み取りに課題があります。
- ・無答率がやや高く課題です。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	3 (1) 等式の性質と移項の関係	一元一次方程式で、式変形として正しいものを選ぶ	89.5%	89.8%	89.7%
	3 (3) 連立二元一次方程式をつくる	着目する数量を選び、式で表す	75.3%	73.4%	74.1%
図形	5 (1) 直線と平面の平行の理解	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	81.2%	79.2%	81.0%
資料の活用	13 (2) ヒストグラムの中央値の意味	ヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	50.0%	54.8%	52.0%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	1 (1) 分数の除法	$3/4 \div 5/6$ を計算する	76.6%	82.3%	85.8%
	1 (2) 指数を含む数の計算	$2 \times (-5^2)$ を計算する	61.9%	65.4%	70.7%
図形	6 (3) 内角の和を求める式の意味理解	六角形の内角の和について $(n-2)$ が表すものを選ぶ	40.8%	45.5%	47.8%
関数	10 (3) 2つの数量の関係の比例判断	速さが一定のときの時間と道のりの関係の正しい記述を選ぶ	45.4%	58.6%	60.4%
資料の活用	14 (2) 樹形図を利用して確立を求める	3枚の効果を同時に投げたときの表裏の出る確率を求める	55.0%	59.4%	65.1%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設 問	石狩市		全 道		全 国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
関数	10 (1) 比例の関係を式に表す	$x = 2$ 、 $y = 6$ の比例の式を求める	45.8%	21.1%	53.9%	14.1%	56.7%	13.0%
資料の活用	13 (1) 度数分布から相対度数を求める	通学時間の度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	38.5%	24.3%	42.0%	18.0%	42.7%	16.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的・基本的事項の習熟には日常的に繰り返し既習事項を確認することが必須です。課題や目標を明確にして、意識的、計画的に演習させるなど、反復して定着に努めさせることが大切です。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力をみる問題です。

- ・日常的な事象等を数学化すること
 - ・情報を活用すること
 - ・問題解決のための構想を立て実践すること
 - ・他の事象との関係をとらえること
- 設問数は16問です。

- ・個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることに課題があります。
- ・無答率が高くなっていることに課題があります。

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	2 (3)	成立しない理由の説明	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明	33.8%	41.1%	44.2%
関数	3 (2)	数量の関係を数学的に説明する	ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の関係を説明	51.3%	63.5%	62.3%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨		設 問	石狩市		全 道		全 国	
				正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
図形	1 (3)	数学的解釈と問題解決法を説明	図形の性質を用いて、位置を求める方法を言葉や図で説明	52.7%	23.5%	57.5%	14.5%	60.6%	12.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理、確認し、具体例を通して繰り返し指導し、確認する必要があります。
- ・資料を読み取り、数理的な考察の方法を位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・日常生活から具体例を示し、数学的な考え方が導き出せるように指導する必要があります。
- ・最後まで粘り強く取り組む姿勢の大切さを指導する必要があります。
- ・数学の知識や考え方が日常生活にとってどれだけ大切であるかを、具体的な例をあげて考えさせ、理解させることが重要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 56.1%、全国の 56.6% に対して石狩市は 53.1% で全道より 3.0ポイント、全国より 3.5ポイント低くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 80.6%、全国の 82.1% に対して石狩市は 77.6% で、全道より 3.0ポイント、全国より 4.5ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 70.6%、全国の 71.5% に対して石狩市は 66.7% と、全道より 3.9ポイント、全国より4.8ポイント低くなっています。
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 90.5%、全国の 91.3% に対して石狩市は 88.8% で、全道より 1.7ポイント、全国より 2.5ポイント低くなっています。
- ・「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は全て全道・全国より低い結果です。
- ・数学に関する質問では、全般的に全道・全国より低い傾向が多くみられます。

平成26年度 学習状況調査 [児童・生徒質問紙] 結果

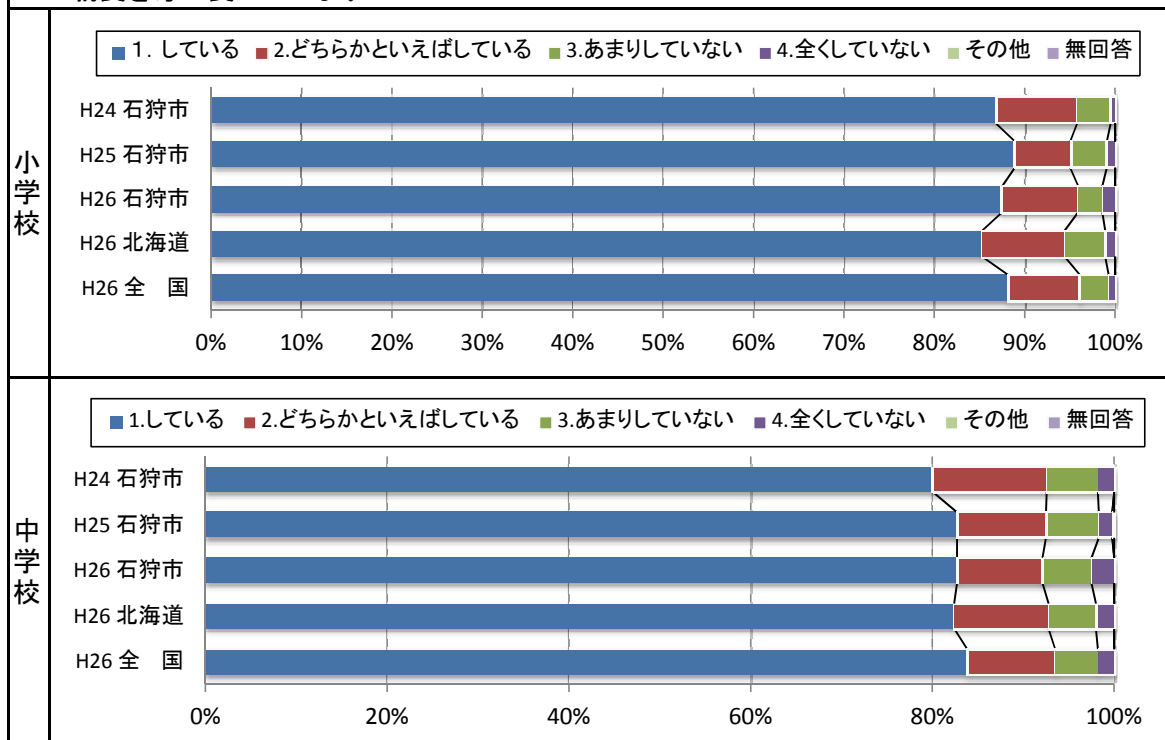
I 生活習慣

朝食を食べる習慣…定着傾向

「朝食を毎日食べる」割合は、小学生では95.9%(北海道比1.5ポイント高く、全国比0.1ポイント低い)、中学生では92.1%(北海道比0.7ポイント低く、全国比1.5ポイント低い)です。

朝食を取る習慣は、定着しつつあると言えます。

1. 朝食を毎日食べていますか



起床・就寝時刻…生活リズムが確立される傾向

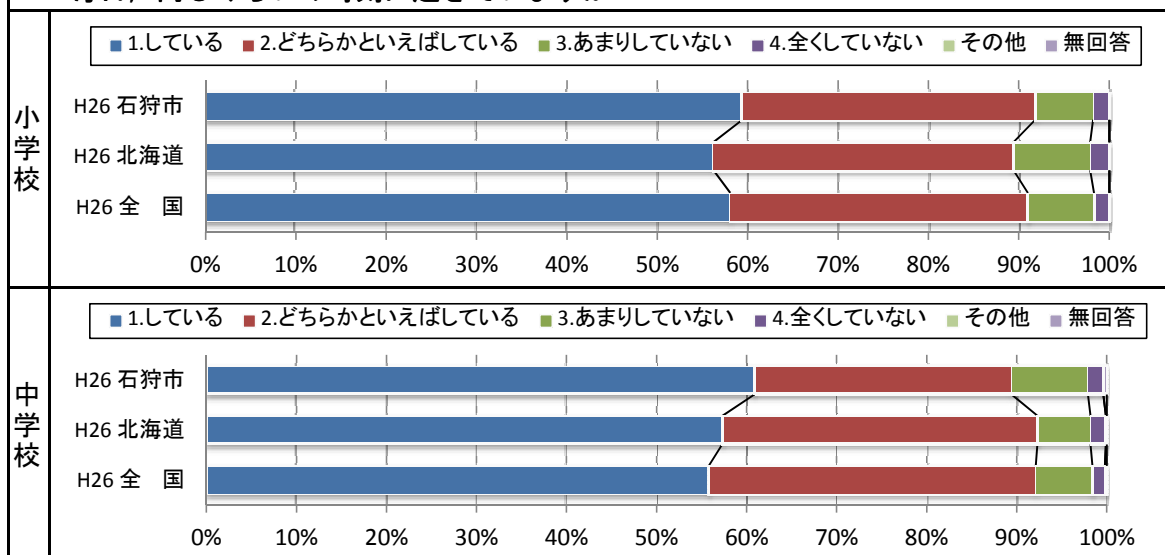
これまでの調査では、起床と就寝時刻を問う設問でしたが、今回は、起床・就寝時刻の規則性を問う設問となっています。

同じ時間に起床する割合は、小学生が91.8%(全道比2.4ポイント・全国比0.9ポイント高い)で、中学生が89.3%(全道比3.0ポイント・全国比2.8ポイント低い)でした。

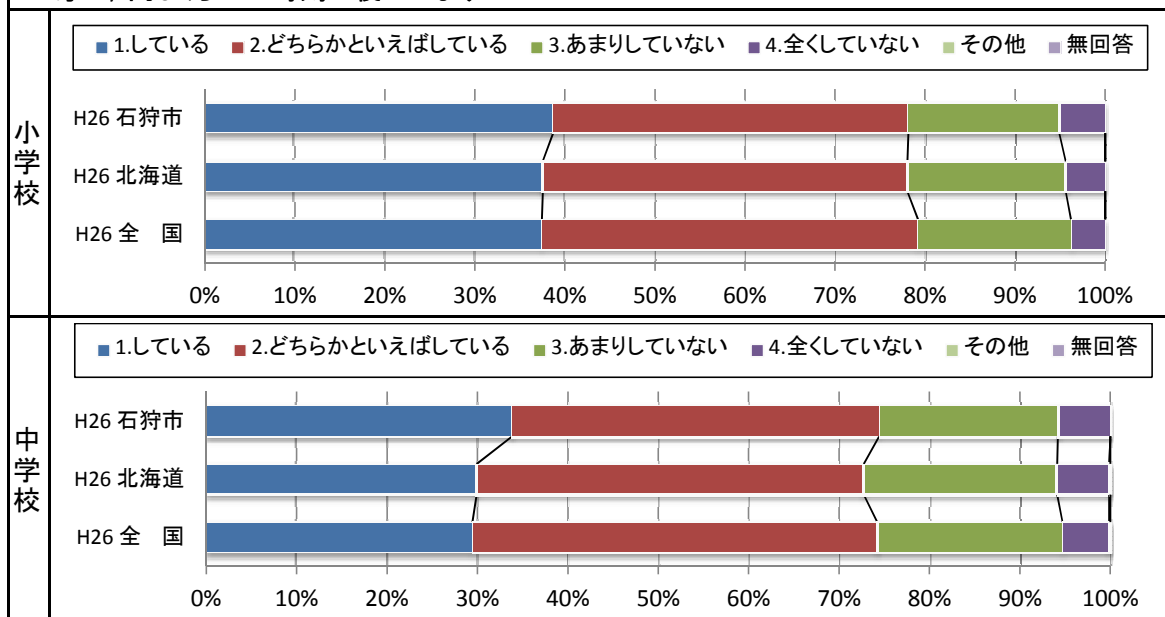
同じ時間に就寝する割合は、小学生が78.2%(全道比0.2ポイント高く、全国比1.0ポイント低い)で、中学生が74.4%(全道比1.7ポイント・全国比0.3ポイント高い)でした。

小学生・中学生の生活リズムが、安定する傾向が伺えます。

2. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



3. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



ゲームの時間…増加傾向

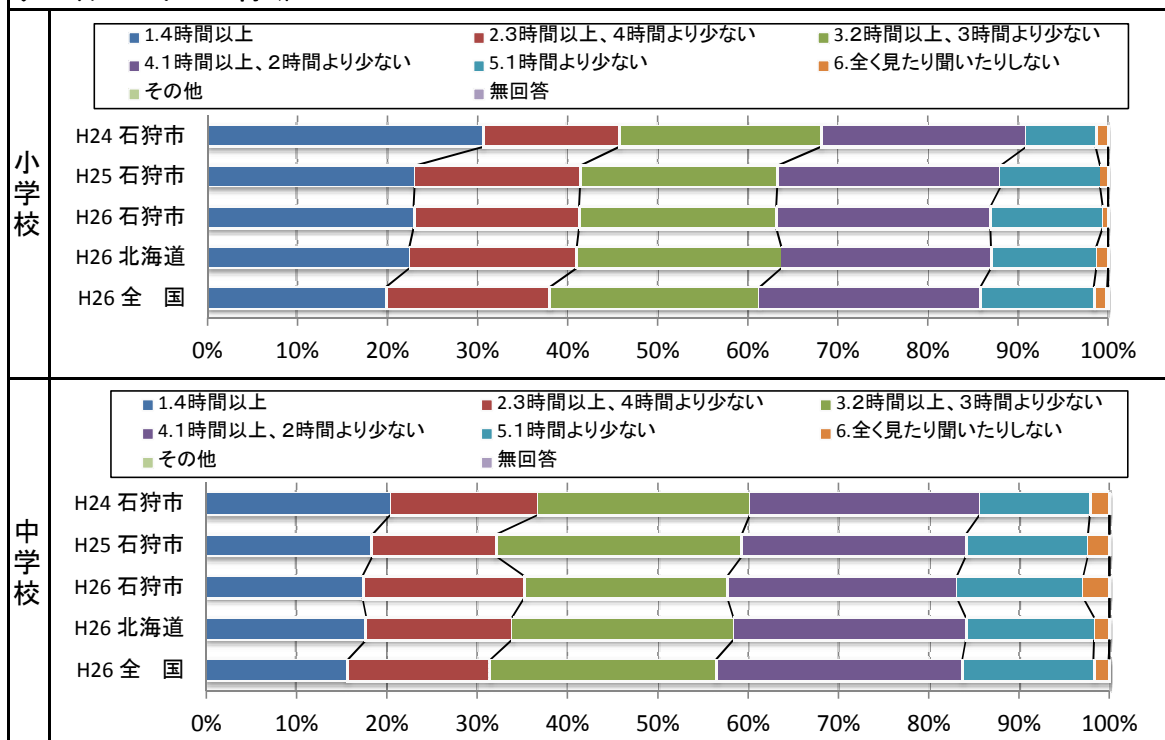
平日にテレビ・ビデオ・DVDを見ている時間については、3時間以上見ている割合が、小学生で41.3%(全道比0.3ポイント・全国比3.3ポイント高い)、中学生で35.2%(全道比1.4ポイント・全国比3.7ポイント高い)でした。

昨年度に比べ、中学生の視聴時間が増えています。

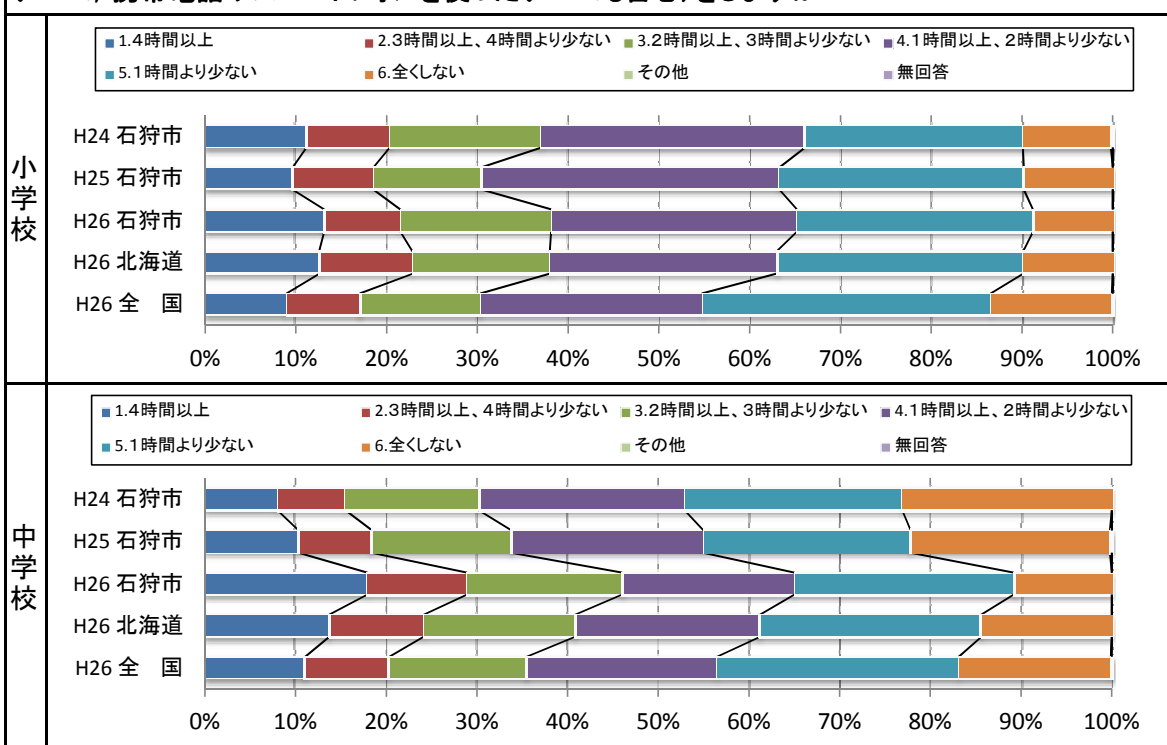
テレビゲームをする時間については、2時間以上している割合が、小学生で38.1%(全道比0.2ポイント・全国比7.8ポイント高い)、中学生で46.0%(全道比5.2ポイント・全国比10.6ポイント高い)でした。

ゲームする時間が、小学生も中学生も増加する傾向が見られます。

4. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



5. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



メール・インターネットの時間…多い

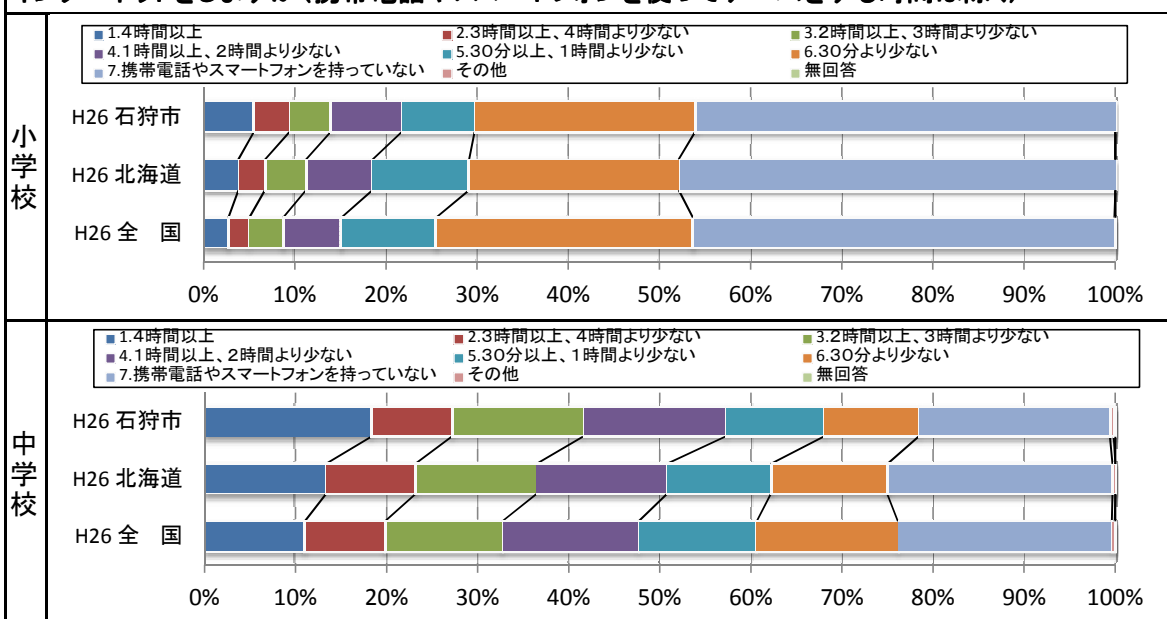
平日に、携帯電話やスマートフォンの所持率は、小学生で53.9%(全道比1.8ポイント・全国比0.2ポイント高い)、中学生で79.0%(全道比3.7ポイント・全国比2.5ポイント高い)でした。

1日2時間以上利用する割合は、小学生で13.9%(全道比2.7ポイント・全国比5.2ポイント高い)、中学生で41.5%(全道比5.1ポイント・全国比8.8ポイント高い)でした。

1日4時間以上利用している割合は、小学生で5.5%(全道比1.7ポイント・全国比2.8ポイント高い)、中学生で18.3%(全道比5.0ポイント・全国比7.3ポイント高い)でした。

小学生も中学生も、利用している割合が高い状態が、続いています。

6. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



Ⅱ 家庭学習・読書・情報の取得

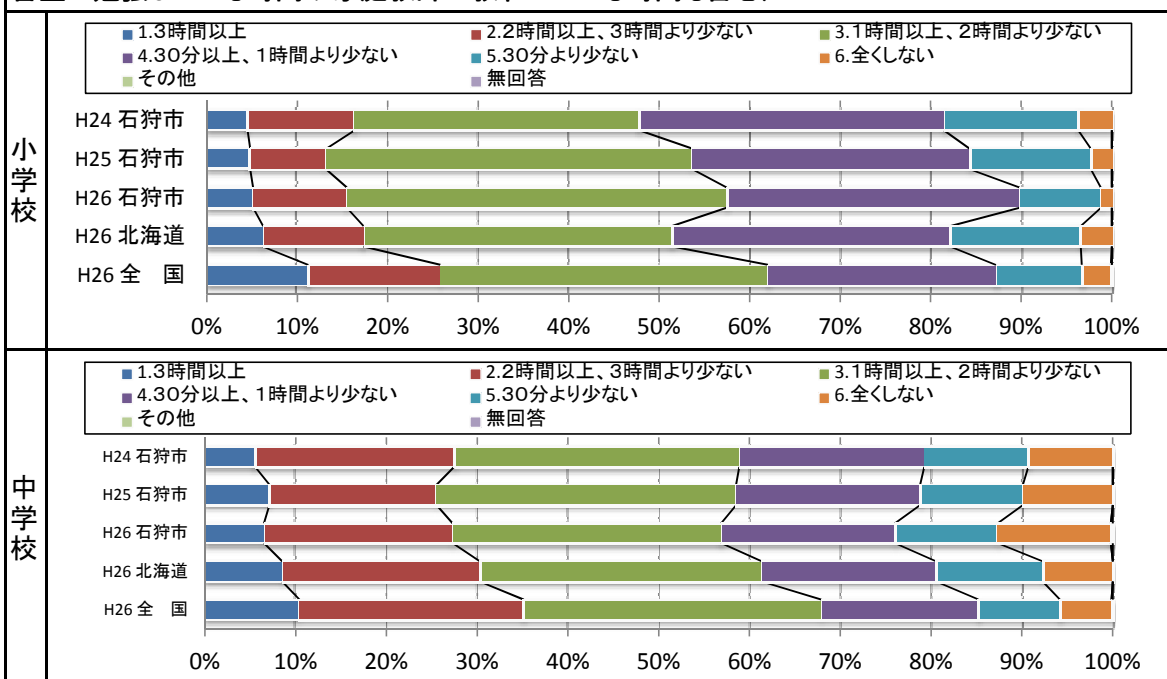
平日は1～2時間、土・日は2～3時間の学習が増加

平日（月～金曜日）における家庭での学習時間は、「1時間未満（全くしないも含む）」と回答した割合は、小学生で42.6%（全道比6.0ポイント低く、全国比4.7ポイント高い）、中学生で43.0%（全道比4.4ポイント・全国比11.0ポイント高い）でした。

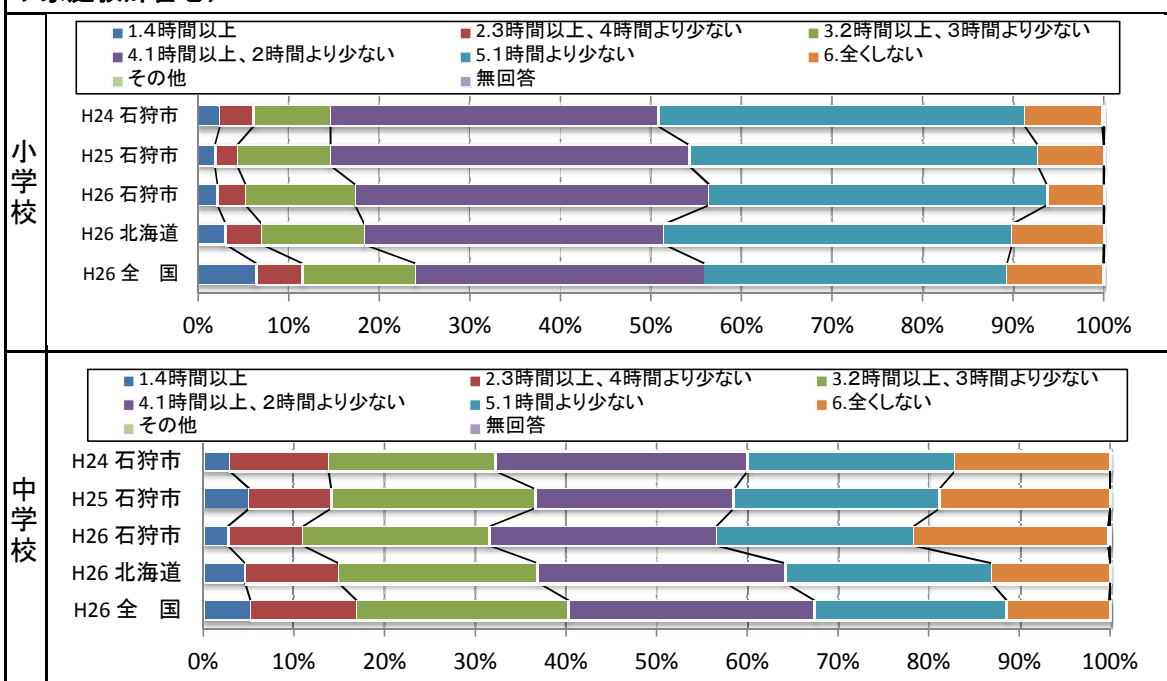
土・日の家庭での学習時間が「1時間未満（全くしないも含む）」と回答した割合は、小学生で43.6%（全道比0.4ポイント・全国比0.4ポイント低い）、中学生で43.2%（全道比7.8ポイント・全国比10.7ポイント高い）でした。

小学生の家庭学習に、改善が伺えます。

7. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



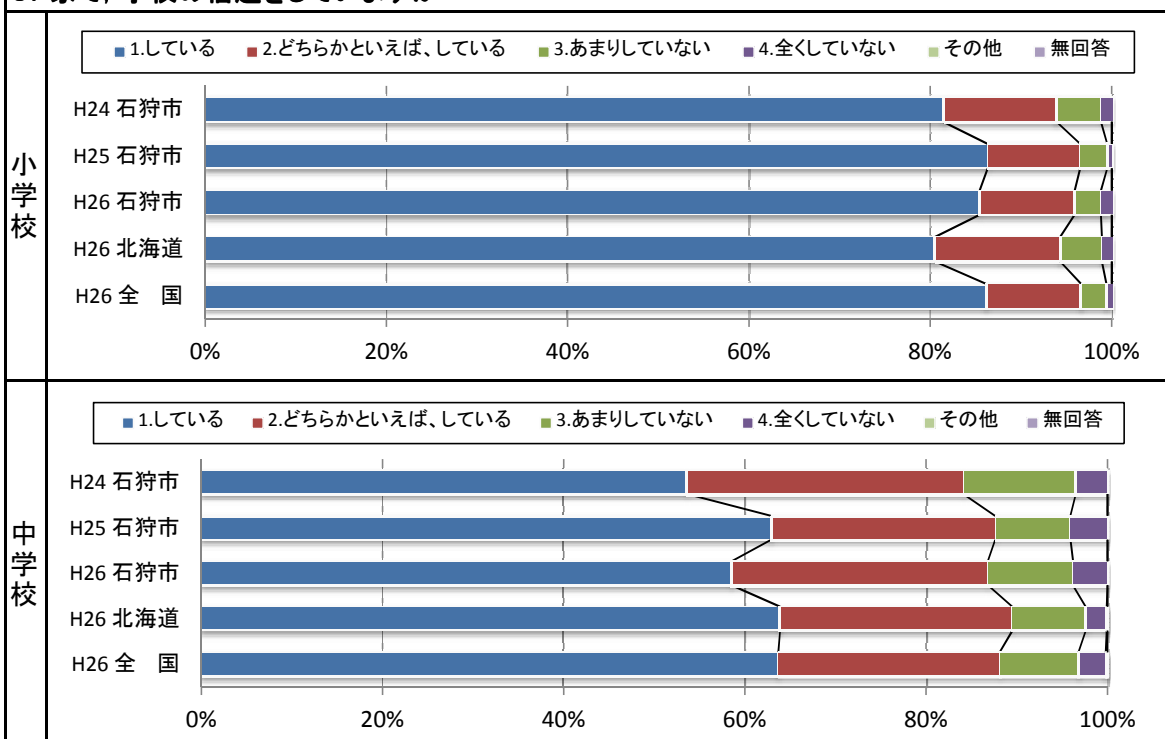
8. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



家庭で宿題をする割合は、高い傾向

「家で宿題をしている・どちらかといえば、している」と回答した割合は、小学生で95.9%(全道比1.6ポイント高く、全国比0.6ポイント低い)、中学生で86.8%(全道比2.6ポイント・全国比1.4ポイント低い)でした。
小・中学生とも宿題を家でする割合は、昨年度を下回っていますが、全国平均に近付いています。

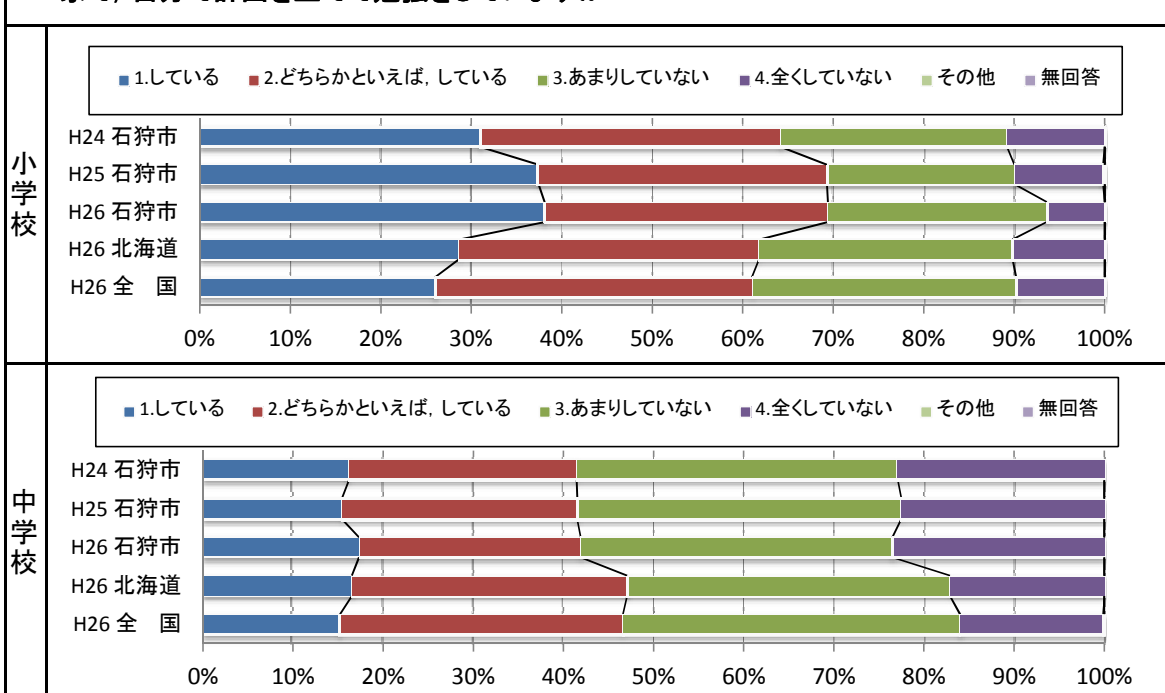
9. 家で、学校の宿題をしていますか



家での計画的な学習は、増加傾向

「家で、自分で計画を立てて勉強している・どちらかといえば、している」と回答した割合は、小学生で69.4%(全道比7.6ポイント・全国比8.4ポイント高い)、中学生は41.9%(全道比-5.1ポイント・全国比4.7ポイント低い)でした。
小学生の自分で計画を立てて勉強する姿勢は、定着しつつあると言えます。

10. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



家庭での読書量は、小学生は減少し中学生は増加傾向

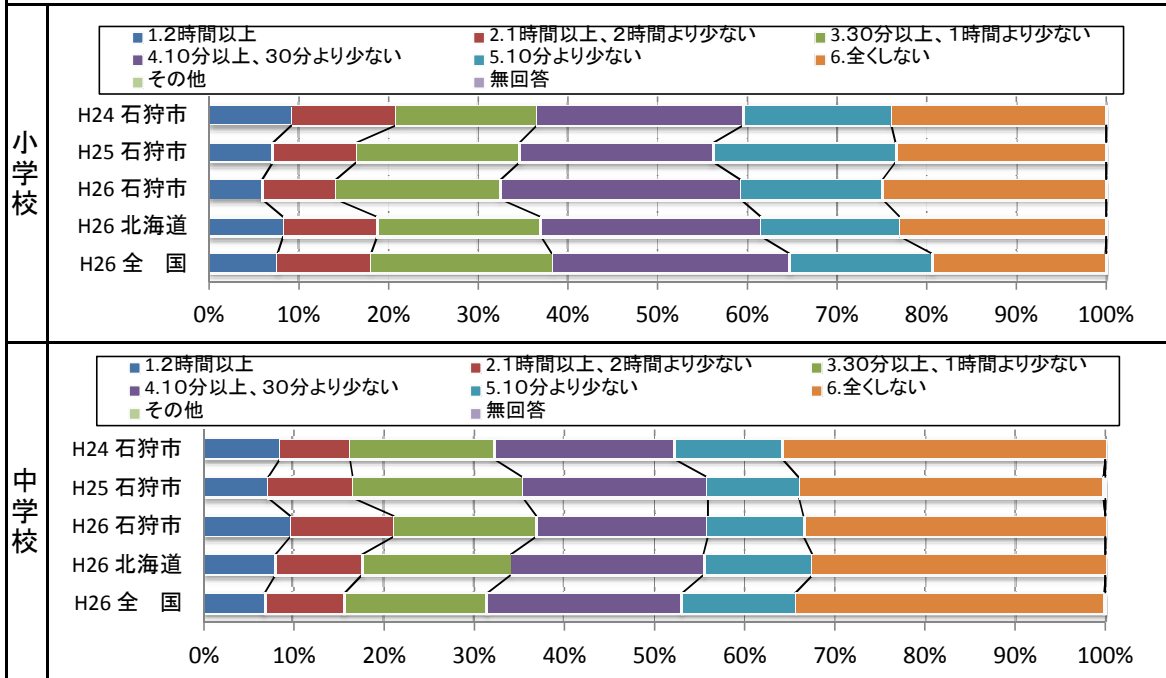
1日に30分以上読書する小学生は32.5%(全道比4.4ポイント・全国比5.7ポイント低い)、中学生で36.9%(全道比2.9ポイント・全国比5.5ポイント高い)でした。

一方、全く読まないと回答した小学生は25.0%(全道比2.0ポイント・全国比5.7ポイント高い)、中学生で33.5%(全道比1.0ポイント高く、全国比0.8ポイント低い)で、中学生に改善の傾向が伺えます。

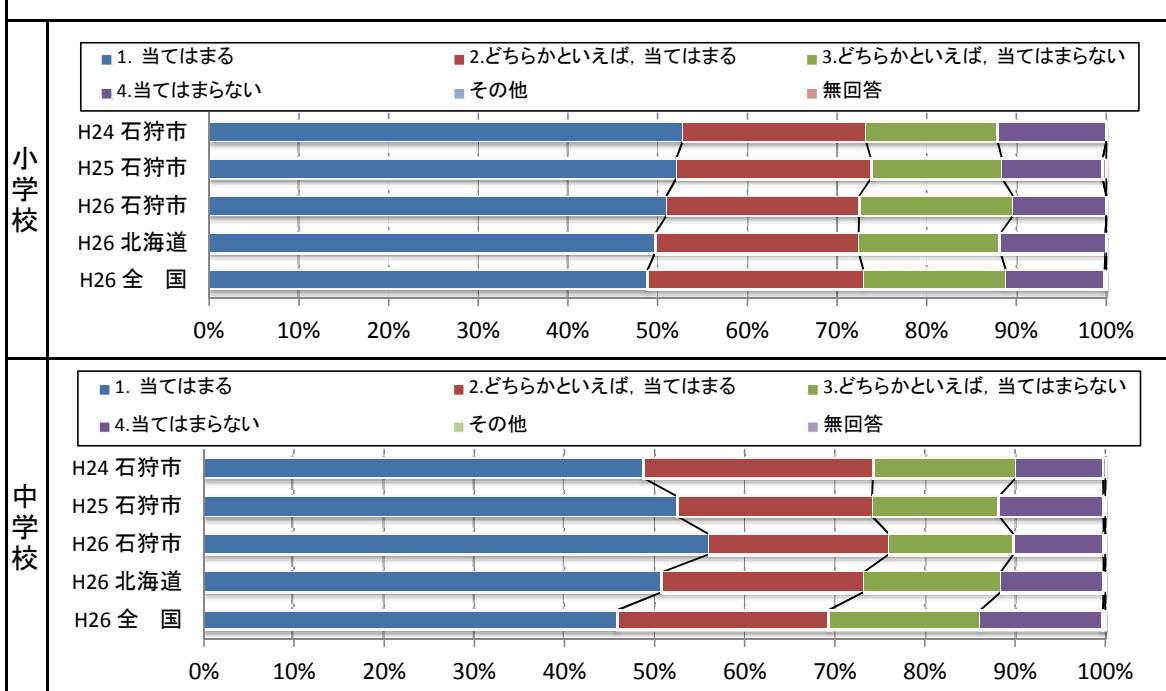
読書が好きな割合は、小学生が72.5%(全道比0.1ポイント高く、全国比0.5ポイント低い)、中学生が76.0%(全道比2.8ポイント・全国比6.6ポイント高い)でした。

中学生の読書好きの傾向が伺えます。

11. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



12. 読書は好きですか

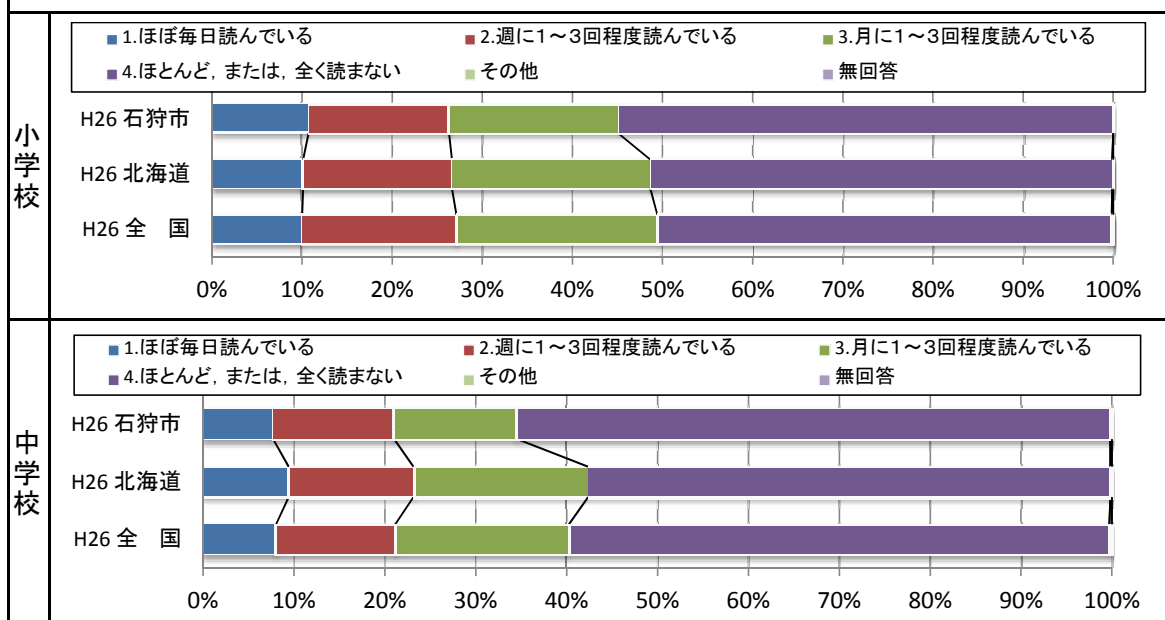


新聞を読む…小学生が多い

「ほぼ毎日」新聞を読む小学生は10.7%(全道比0.6ポイント・全国比0.7ポイント高い)、中学生で7.7%(全道比1.7ポイント・全国比0.3ポイント低い)でした。一方、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した小学生は54.9%(全道比3.7ポイント・全国比4.5ポイント高い)、中学生で65.2%(全道比7.8ポイント・全国比5.8ポイント高い)でした。

新聞を読むのは、小学生に多い傾向が伺えます。

13. 新聞を読んでいますか



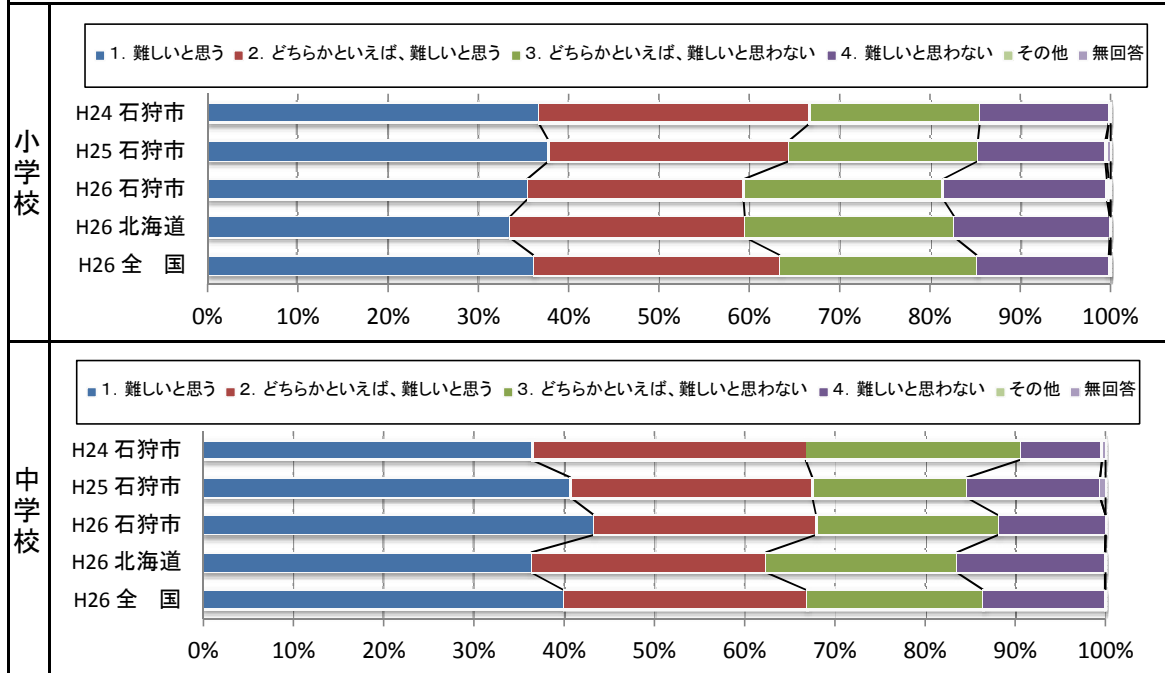
Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文苦手とする小学生は減少、中学生は増加傾向

決められた字数に合わせて作文を書くことについて、「難しい・どちらかといえば、難しい」と回答した小学生は59.4%(全道比0.1ポイント・全国比4.0ポイント低い)、中学生は67.9%(全道比5.6ポイント・全国比1.1ポイント高い)でした。

決められた字数に合わせて作文を書くことを苦手としている割合は、昨年度に比べて、小学生は減少していますが、中学生は増える傾向が伺えます。

14. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

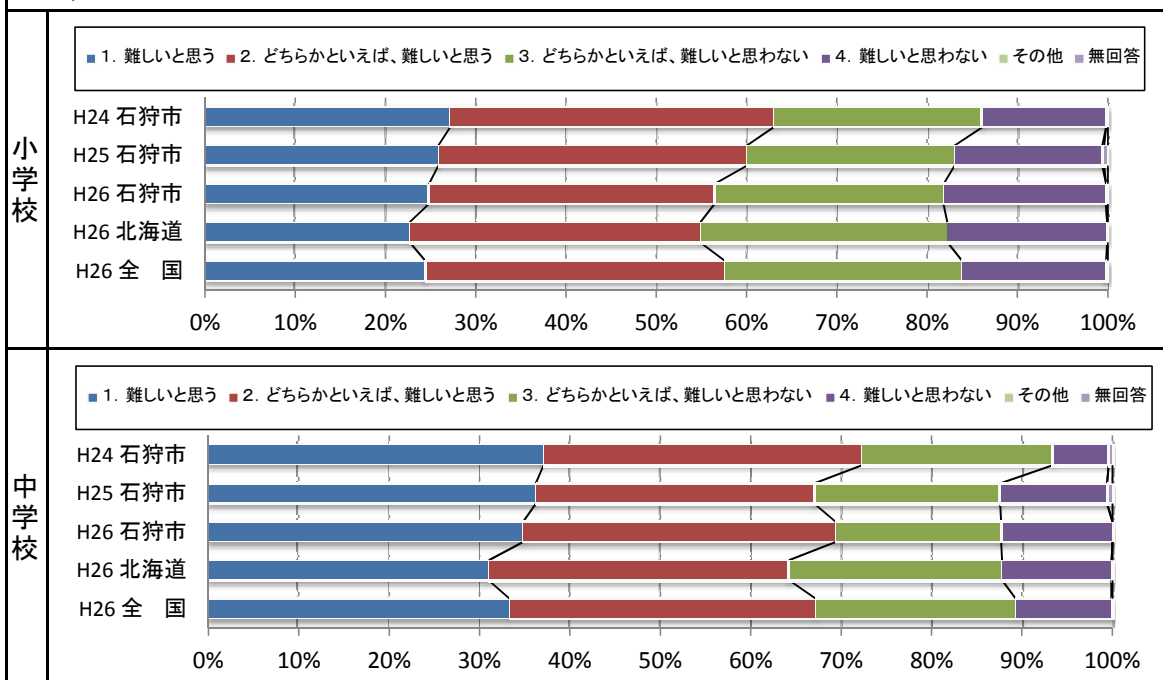


自分の考えを表現すること…小学生に改善傾向

自分の考えを言葉や文章で表現することが「難しい、どちらかといえば、難しい」と思っている割合は、小学生で56.4%（全道比1.5ポイント高く、全国比1.2ポイント低い）、中学生で69.4%（全道比5.2ポイント・全国比2.2ポイント高い）でした。

小学生に改善の傾向が伺えます。

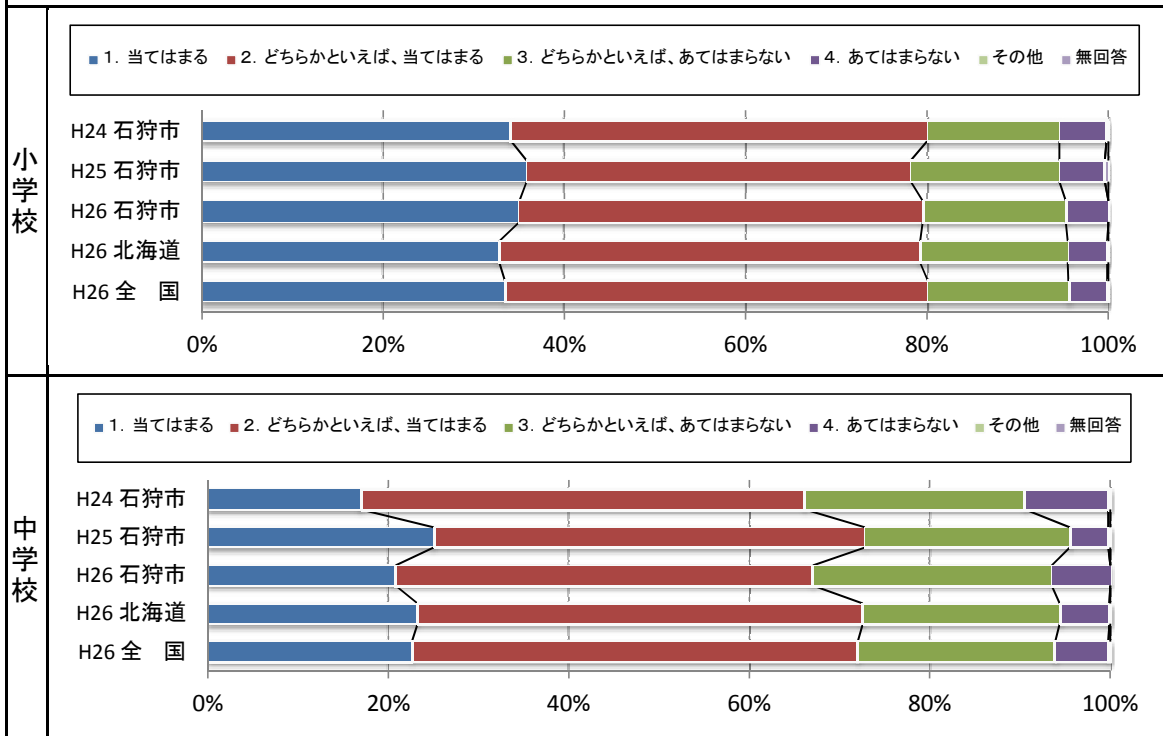
15. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



「国語の授業が分かる」…小学生は全国と同様傾向

国語の授業の内容が「分かる、どちらかといえば、分かる」と解答したのは、小学生で79.5%（全道比0.2ポイント高く、全国比0.6ポイント低い）、中学生で67.1%（全道比5.4ポイント・全国比4.9ポイント低い）という結果でした。小学生は全道・全国とはほぼ同様の傾向が続いていますが、中学生は年度による差が大きくなっています。

16. 国語の授業の内容はよく分かりますか

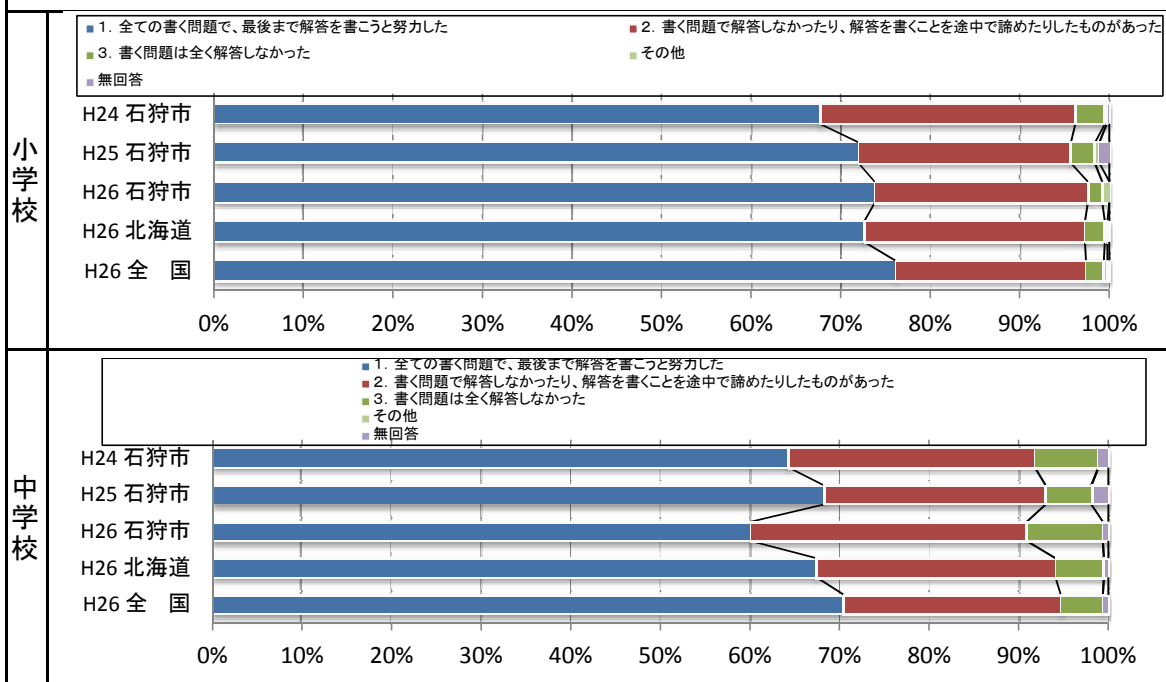


文章に書いて答える問題…小学生に向上の傾向

文章で答える問題については、「全ての書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した」と回答した小学生は73.8%(全道比1.1ポイント高く、全国比2.3ポイント低い)、中学生は60.0%(全道比7.4ポイント・全国比10.4ポイント低い)でした。

昨年度と比べ、小学生に向上の傾向が見られますが、中学生は昨年度を下回りました。

17. 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか



Ⅳ 算数・数学の学習について

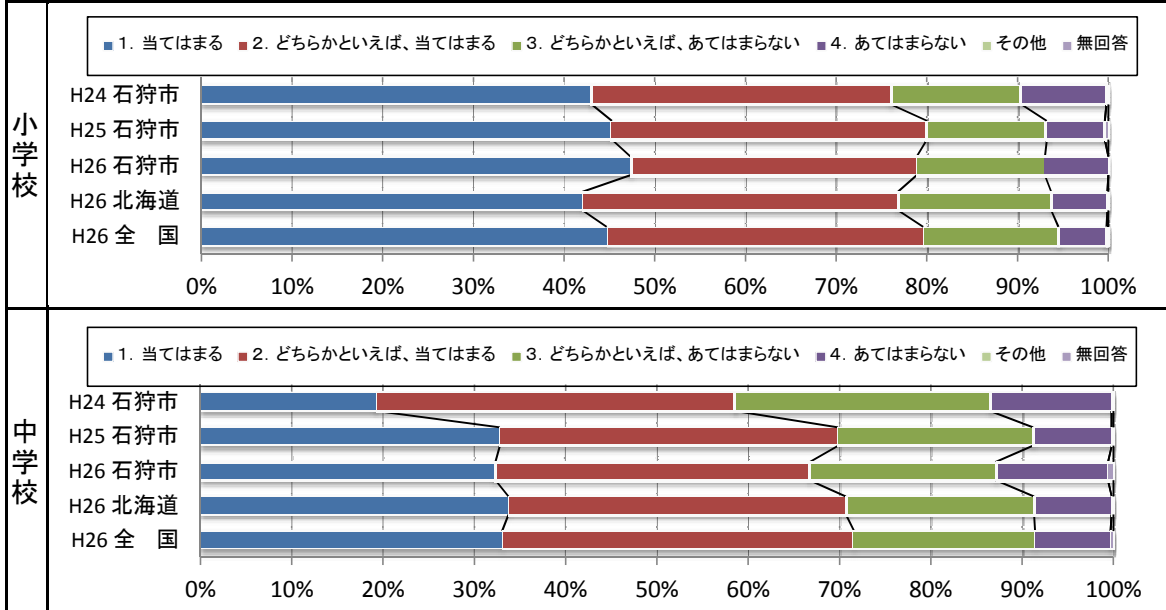
「算数・数学の授業」…授業改善の成果が伺える

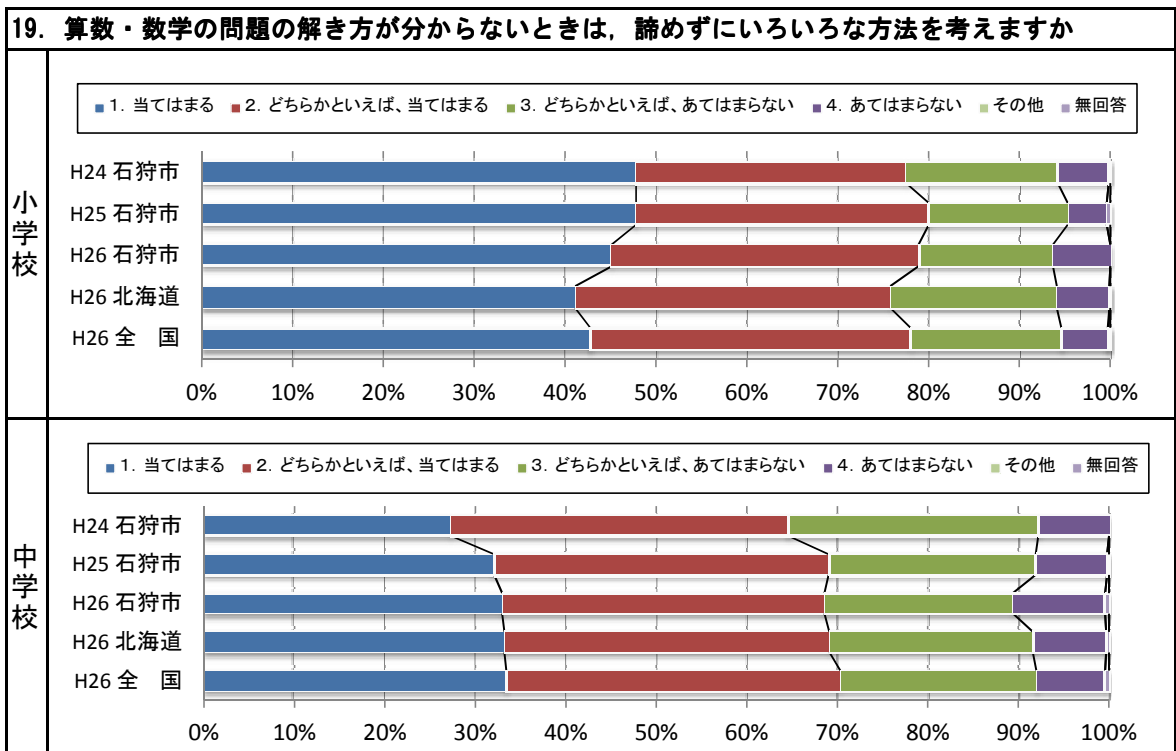
算数・数学の授業の内容が「分かる、どちらかといえば、分かる」と解答したのは、小学生で78.9%(全道比2.1ポイント高く、全国比0.7ポイント低い)、中学生で66.7%(全道比3.9ポイント・全国比4.8ポイント低い)という結果でした。

分からない問題への対処の仕方については、諦めずに問題の解き方を工夫すると回答した小学生は78.9%(全道比3.1ポイント高く、全国比0.8ポイント高い)、中学生では68.5%(全道比0.6ポイント・全国比1.8ポイント低い)という結果でした。

分からない問題への対処の仕方については、小・中共に、改善の傾向が伺えます。

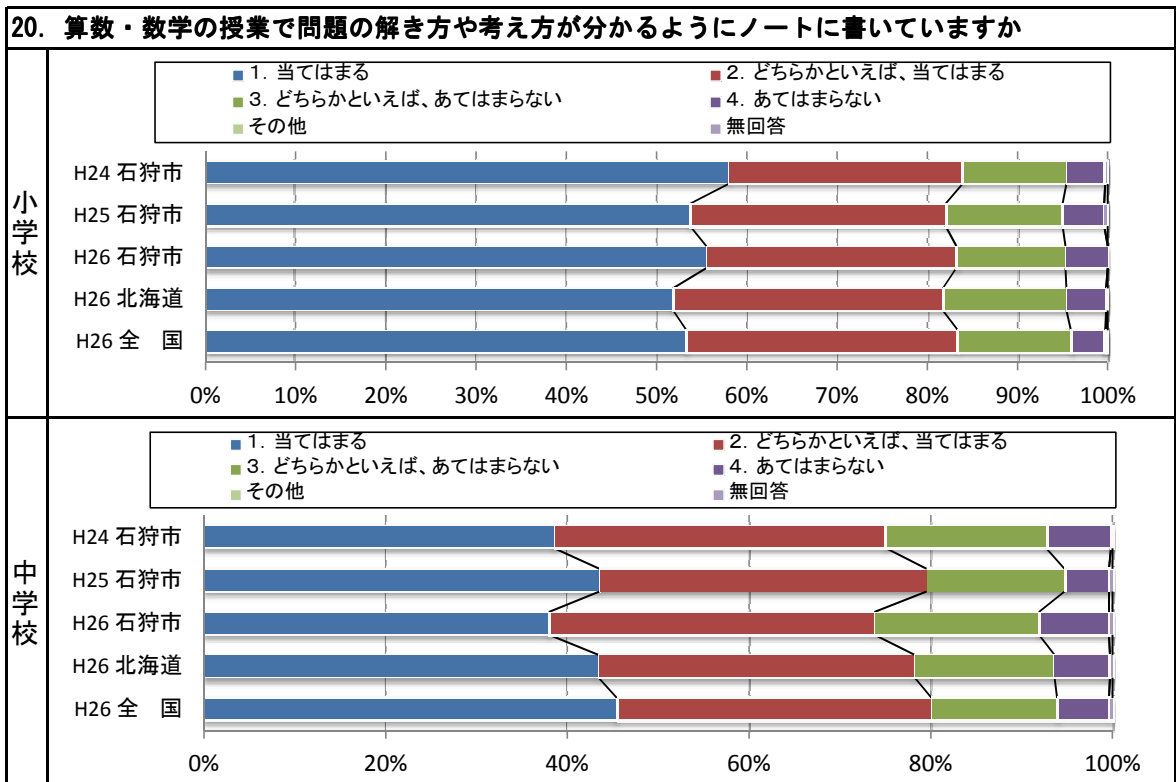
18. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか





ノートの工夫…小学生に成果

問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した小学生は83.2%(全道比1.5ポイント高く、全国比0.2ポイント低い)、中学生は73.7%(全道比4.5ポイント・全国比6.3ポイント低い)でした。
小学生に、改善の傾向が伺えます。



Ⅳ 自尊心・自己肯定感

自己肯定感…小学生が高い

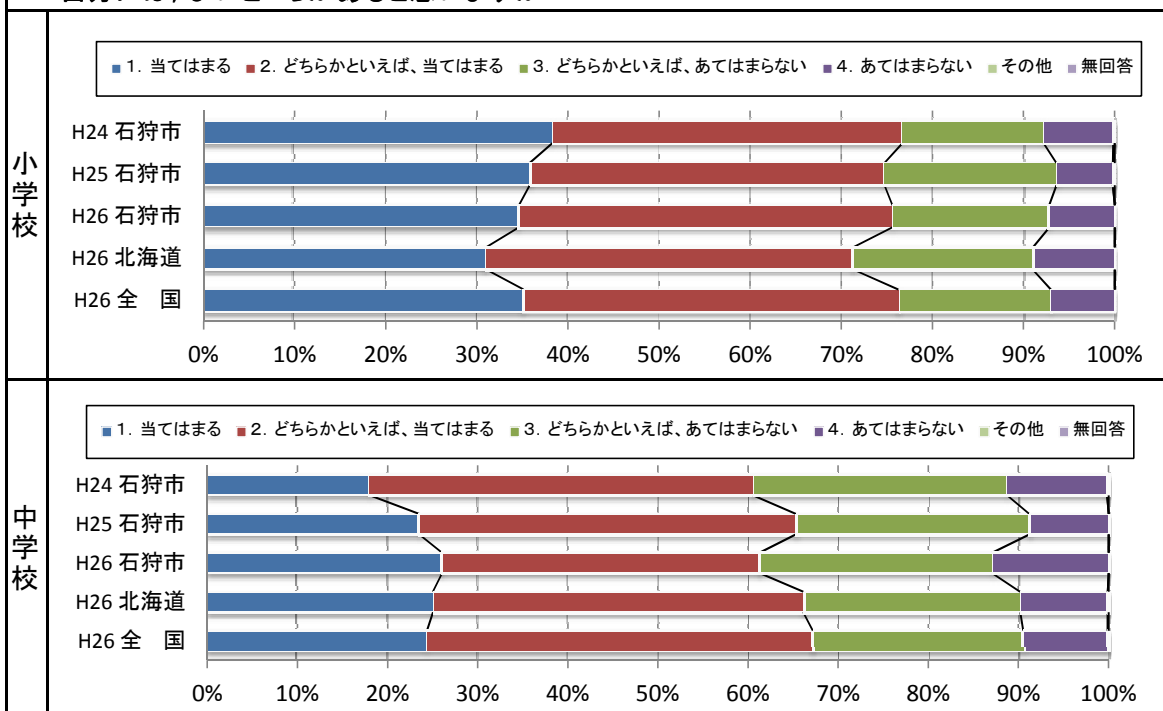
自分には良いところがあると解答したのは、小学生で75.6%(全道比4.3ポイント高く、全国比0.5ポイント低い)、中学生で61.2%(全道比4.9ポイント・全国比5.9ポイント低い)という結果でした。

将来の夢や目標を持っていると回答した小学生は87.3%(全道比2.9ポイント・全国比0.6ポイント高い)、中学生では67.7%(全道比2.9ポイント・全国比3.7ポイント低い)という結果でした。

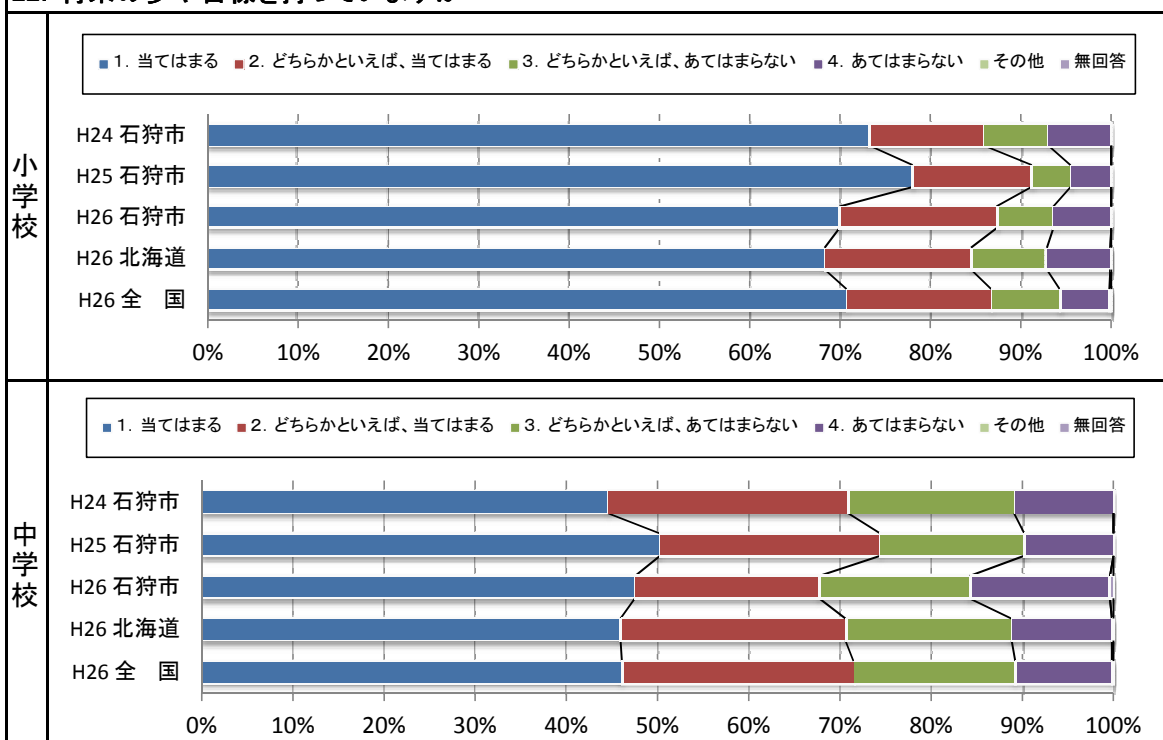
先生は、自分を認めてくれていると回答した小学生は85.3%(全道比8.1ポイント・全国比5.6ポイント高い)、中学生では73.3%(全道比1.7ポイント・全国比0.8ポイント低い)という結果でした。

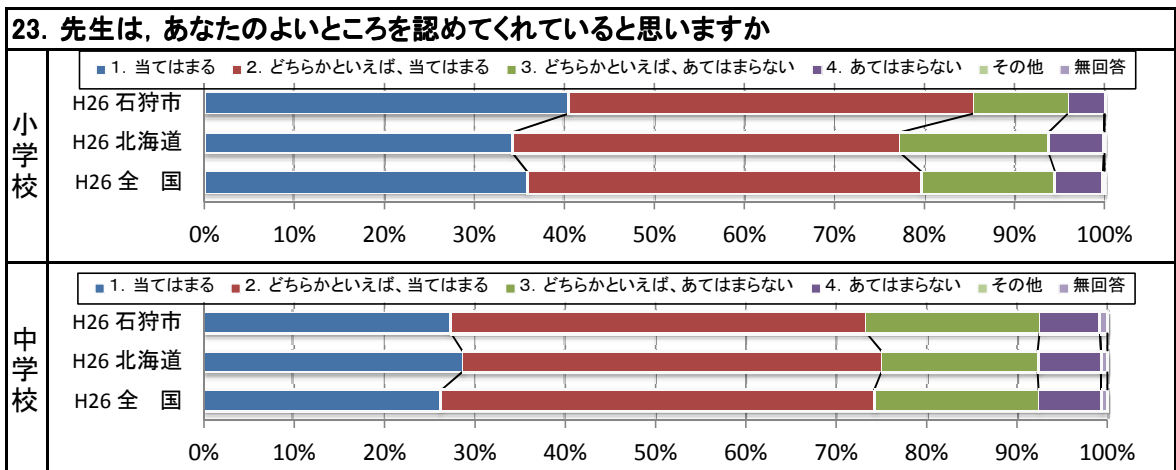
全般的に、本市の小学生は自己肯定感が高く、教師にも満足している傾向が伺えます。

21. 自分には、よいところがあると思いますか



22. 将来の夢や目標を持っていますか





V 授業改善

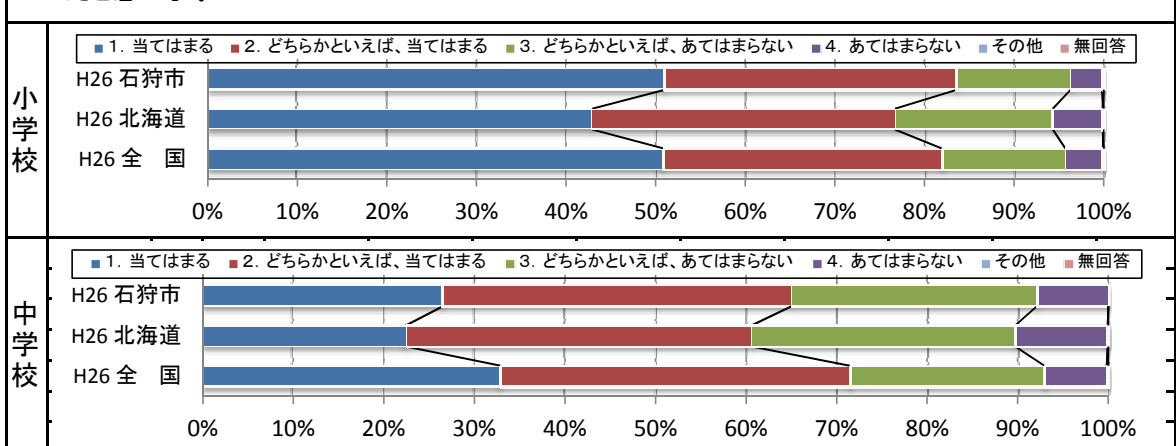
目標とまとめが示された授業…実践に広がり

前学年に受けた授業の初めに、目標が示されていたと解答したのは、小学生で83.6%(全道比6.9ポイント・全国比1.6ポイント高い)、中学生で65.0%(全道比4.4ポイント高く、全国比6.5ポイント低い)という結果でした。

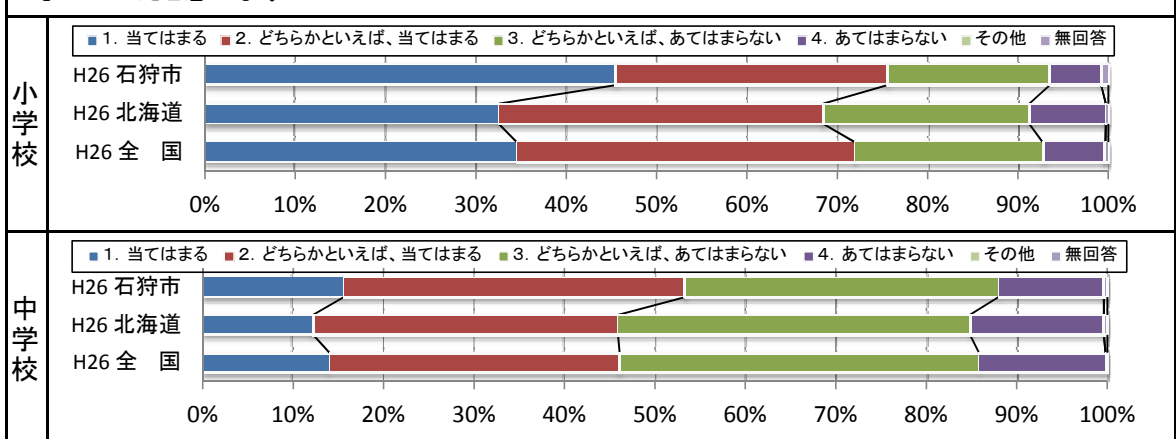
前年度に受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよくおこなっていたと回答したのは、小学生で75.6%(全道比7.2ポイント・全国比3.7ポイント高い)、中学生で53.3%(全道比7.4ポイント・全国比7.2ポイント高い)という結果でした。

目標提示と学習の振り返りのある授業を体験している小学生・中学生の割合が全道より多くなっていることは、小・中学校において授業改善が進んでいる成果と考えます。

24. 小学校5年生・中学校1、2年生までに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか



25. 小学校5年生・中学校1、2年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよくおこなっていたと思いますか



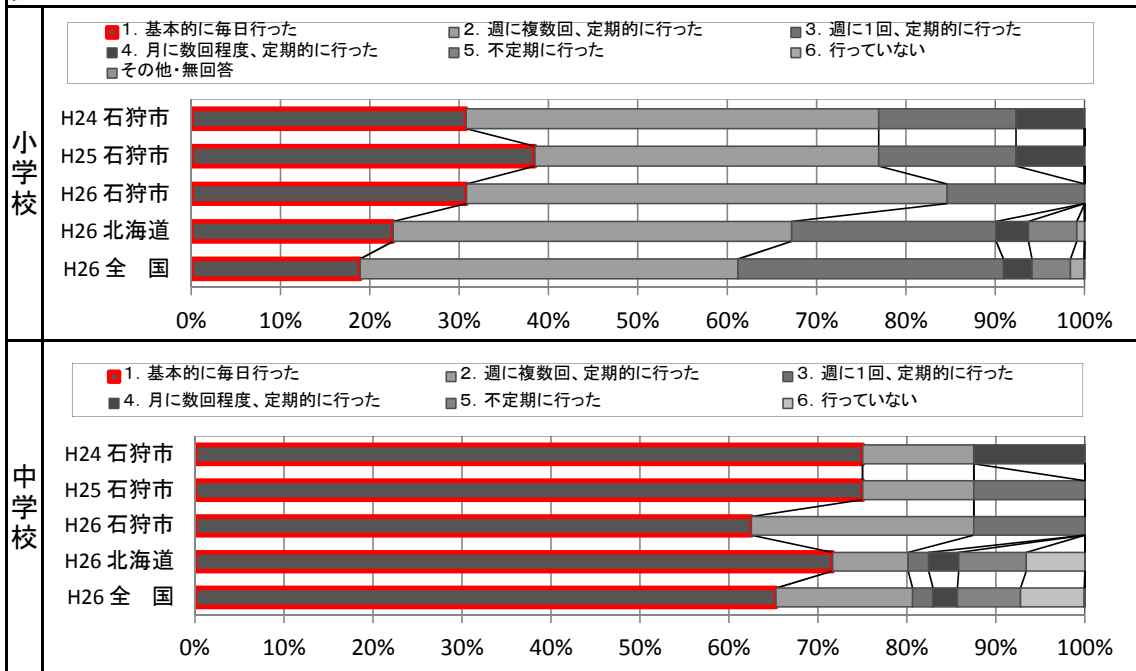
平成26年度 学習状況調査 「学校質問紙」 結果

I 学力向上に向けた取組 等

読書活動への取組が定着

① 「朝読書」を「基本的に毎日行った」のは、小学校で30.8%(全道比+8.2p, 全国比+11.9), 中学校は62.5%(全道比-9.2p, 全国比-2.1p)です。小学校・中学校共に昨年度を下回りましたが、昨年度に続き、「行っていない」は0%を示し、読書活動が定着していることが伺えます。

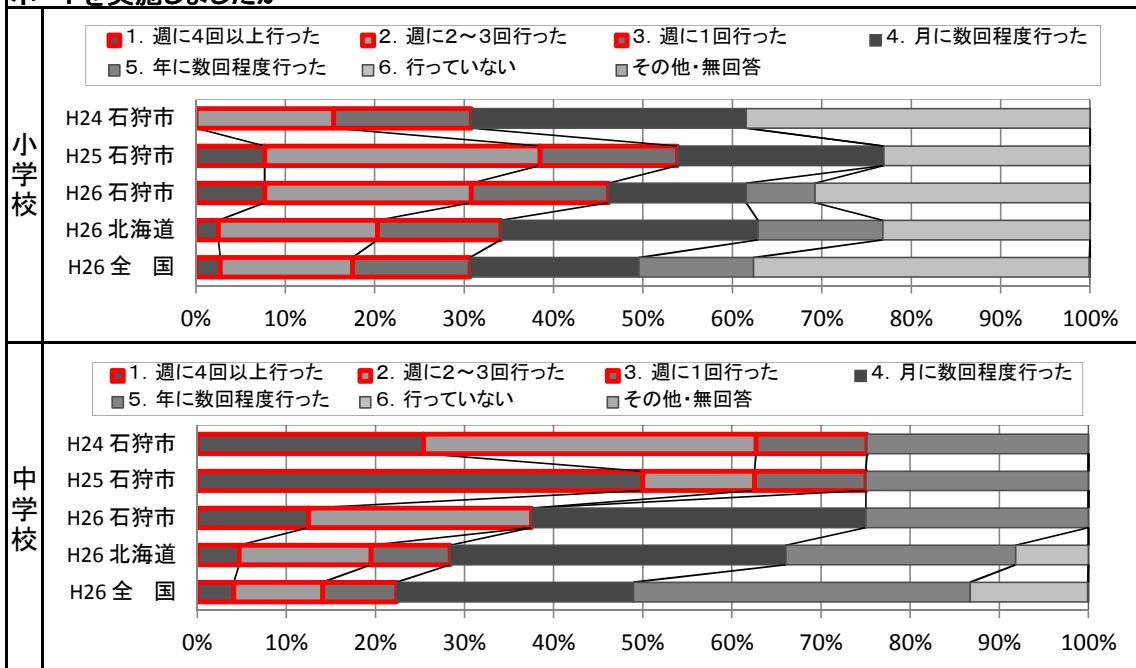
1. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



放課後や長期休業中を利用した補充的学習サポートが定着

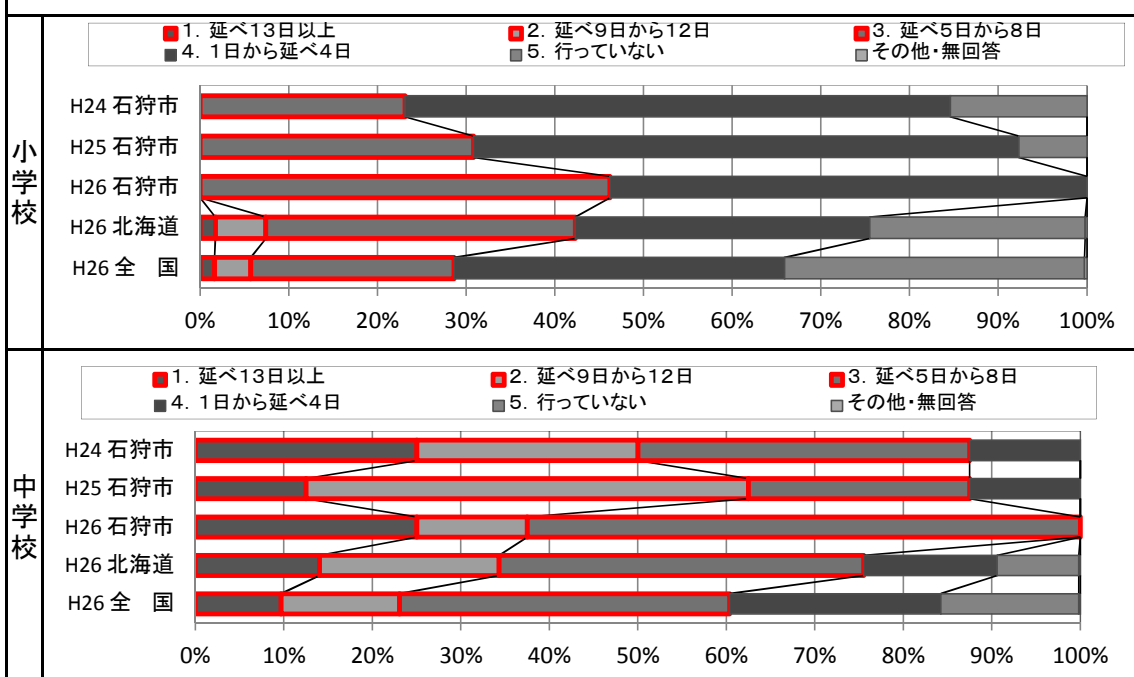
② 放課後を利用した補充的学習サポートを「週に1回以上」行ったのは、小学校で46.2%(全道比+12.1p, 全国比+15.6p), 中学校は37.5%(全道比+9.1p, 全国比+15.1p)です。小学校・中学校共に昨年度を下回っていますが、全道・全国に比べ、より積極的な取組を推進していることが伺えます。

2. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



③ 長期休業中を利用した補充学習サポートは全ての小学校、中学校で実施しています。「延べ5日～8日」以上実施したのは、小学校で46.2%(全道比+3.9p, 全国比+17.6p), 中学校は100%(全道比+24.5p, 全国比+39.6p)です。小学校・中学校共に昨年度を上回り、全道・全国と比べ高い結果となっています。

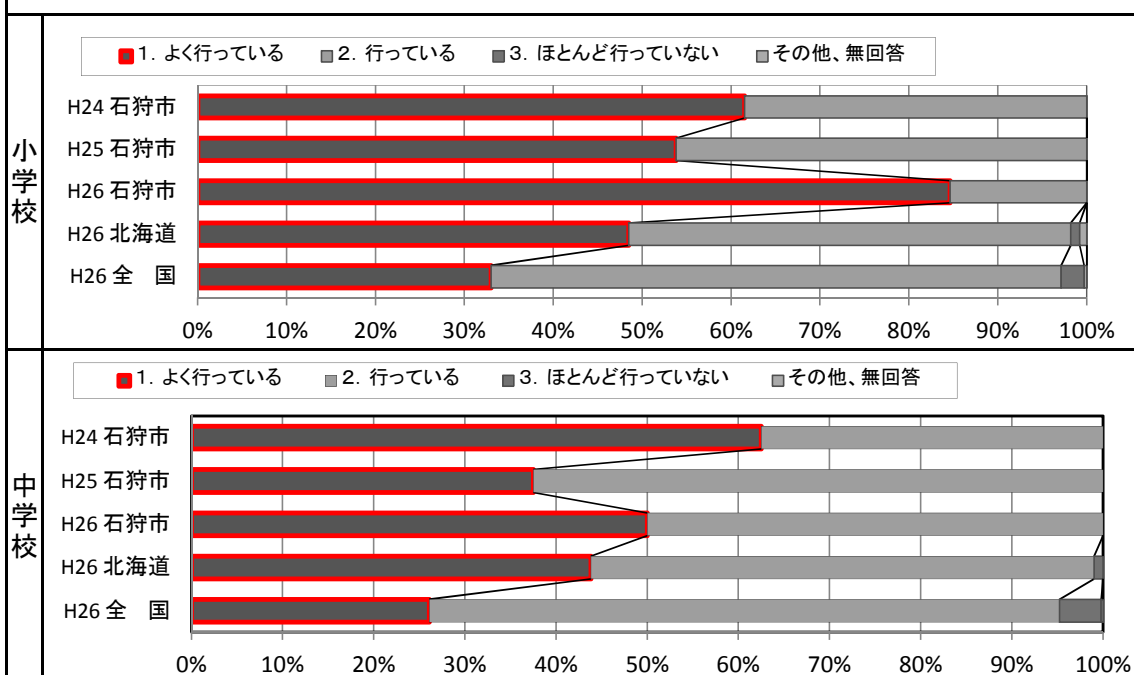
3. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)



全国学力・学習状況調査の結果を活用して改善

④ 具体的な教育指導の改善への利用を「よく行っている」のは、小学校で84.6%(全道比+36.6p, 全国比+51.6p), 中学校は50.0%(全道比+6.2p, 全国比+23.9p)です。小学校・中学校共に昨年度を上回り、全道・全国を上回りました。特に小学校の上昇が大きく、教育指導の改善への意欲が伺えます。

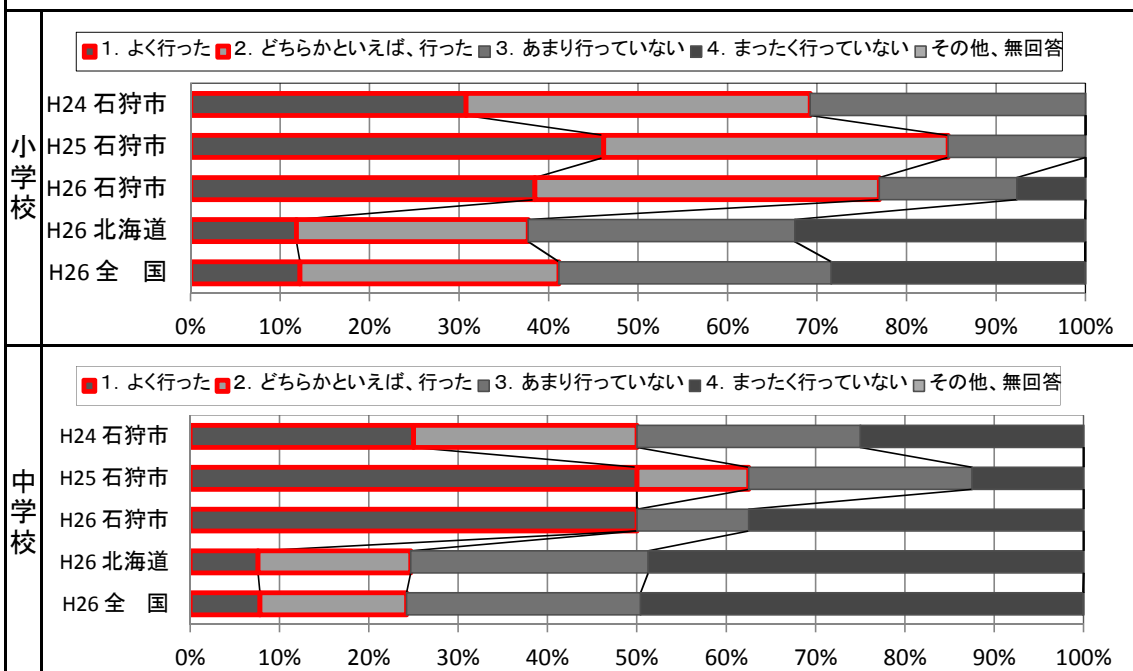
4. 前年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか



地域と連携した取り組みの推進

⑤ 地域の人材のボランティア等による授業サポートを「よく行った」「どちらかといえば、行った」は小学校で77.0%(全道比+39.3p, 全国比+35.9p), 中学校は50.0%(全道比+25.3p, 全国比+25.8p)です。小学校・中学校共に昨年度を下回りましたが, 全道・全国平均より高い結果となっています。

5. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して, 前年度までに, ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか

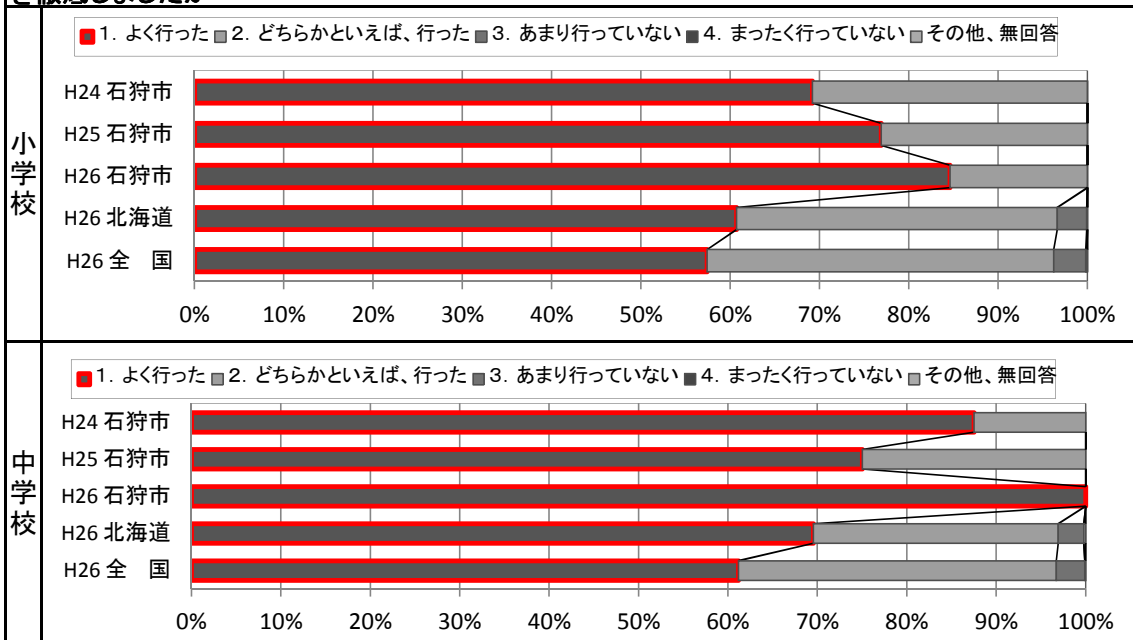


Ⅱ 指導方法・学習規律

授業を充実させるための工夫・改善

① 学習規律の維持・改善については, 「よく行った」のは小学校で84.6%(全道比+23.8p, 全国比+27.2p), 中学校は100.0%(全道比+30.4p, 全国比+38.9p)です。小学校・中学校共に昨年度を上回り, 全道・全国平均より高い結果となっています。

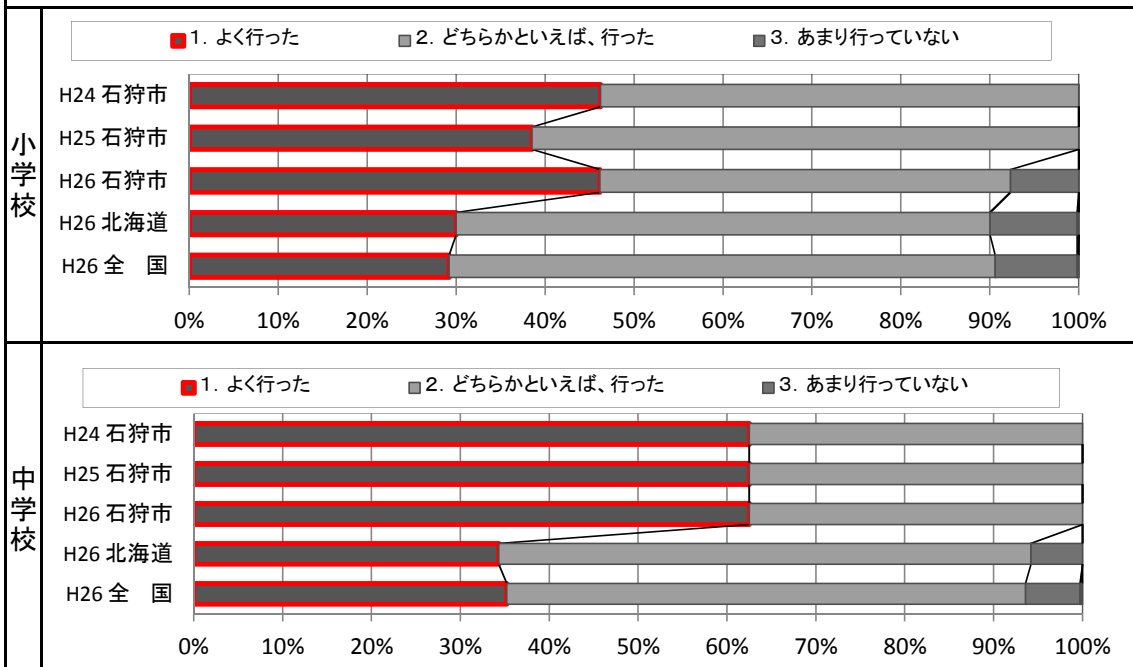
6. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して, 前年度までに, 学習規律(私語をしない, 話をしている人の方を向いて聞く, 聞き手に向かって話をする, 授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



教科の特質に注目した指導の改善・推進

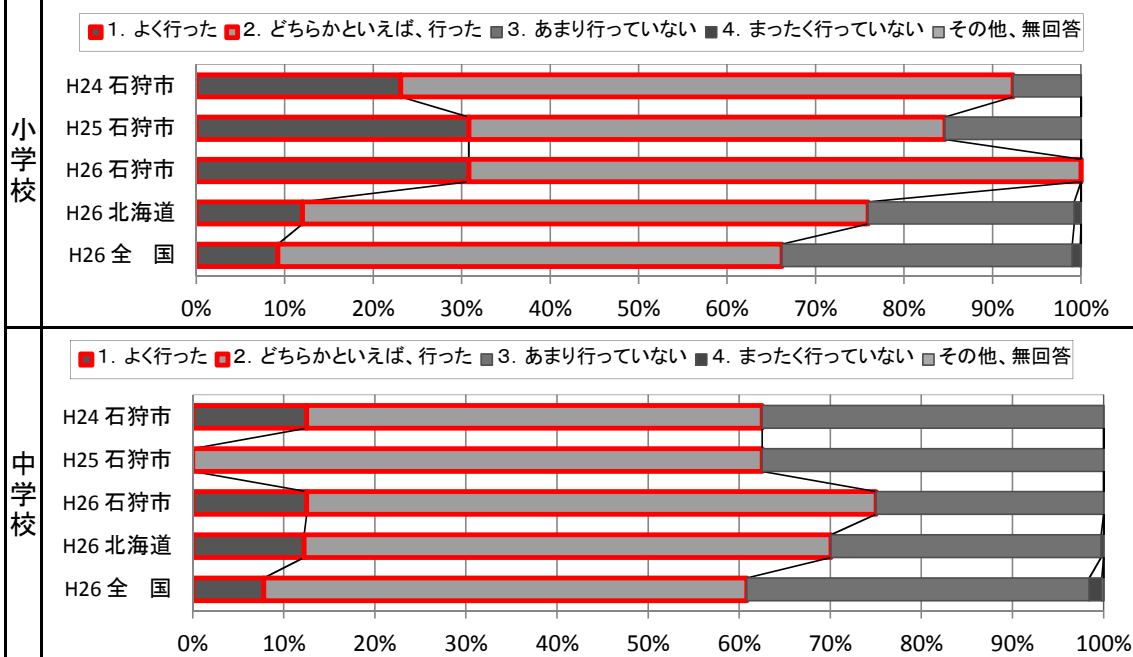
② 国語科では「書くこと」の改善に努め、書く習慣をつける授業を「よく行った」のは、小学校で46.2%(全道比+16.2p, 全国比+17.0p), 中学校は62.5%(全道比+28.2p, 全国比+27.3p)です。小学校については昨年度を上回り、全道・全国平均より高い割合となっています。小学校・中学校共に、「書くこと」に注目して指導していることが伺えます。

7. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



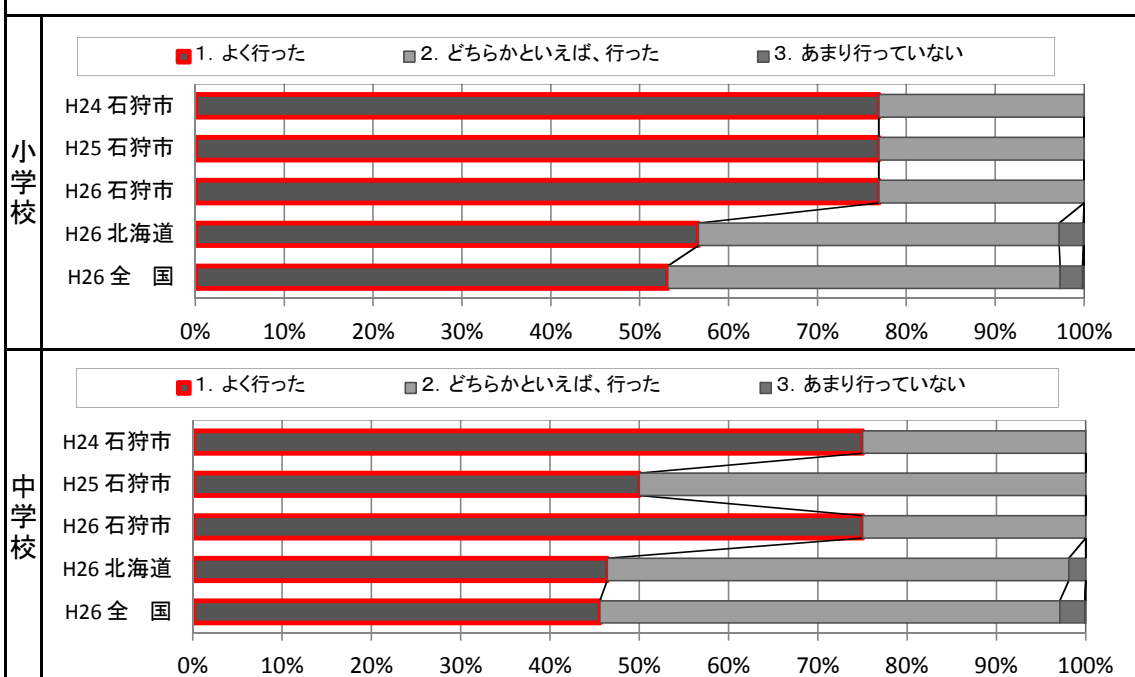
③ 基礎基本事項の応用発展に関連して、実生活における事象との関連を図った授業を「よく行った」「どちらかといえば行った」のは、小学校で100.0%(全道比+24.1p, 全国比+33.8p), 中学校は75.0%(全道比+5.0p, 全国比+14.2p)です。小学校・中学校共に昨年度を上回り、全道・全国平均と比べ、高い結果でした。

8. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



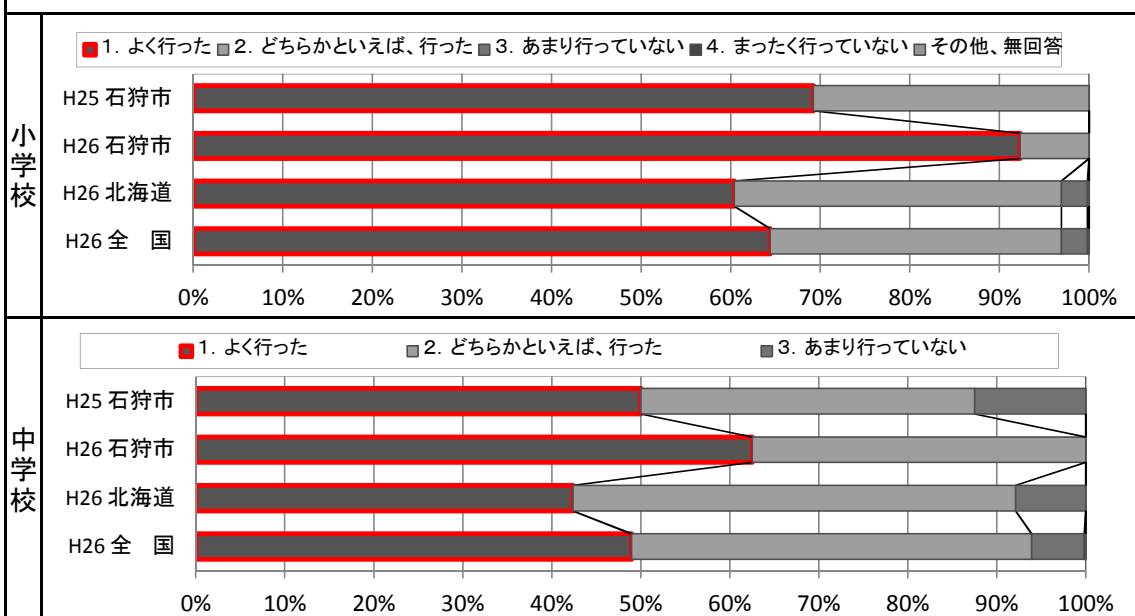
④ 学習方法(適切にノートを取るなど)に関する指導を「よく行った」のは、小学校で76.9%(全道比+20.3p, 全国比+23.7p), 中学校は75.0%(全道比+28.6p, 全国比+29.4p)です。小学校・中学校共に、全道・全国を大きく上回っています。特に、中学校の指導改善が伺えます。

9. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、学習方法(適切にノートをとる, テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしましたか



⑤ 授業過程の改善に関して、「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的によく取り入れている」のは、小学校で92.3%(全道比+31.9p, 全国比+27.9p), 中学校は62.5%(全道比+20.1p, 全国比+13.5p)です。小学校・中学校共に昨年度を上回り、全道・全国平均と比べ、高い結果でした。授業改善が進んでいる成果と考えます。

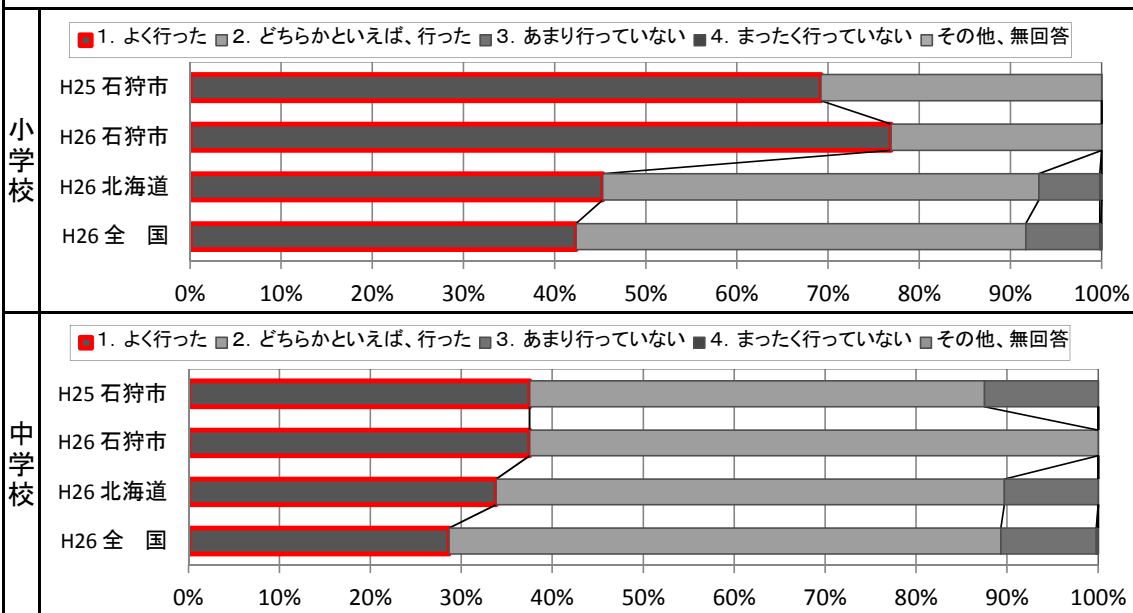
10. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか。



⑥ 授業過程の改善に関して、「授業の最後に学習を振り返る活動を計画的によく取り入れている」のは、小学校で76.9%(全道比+31.6p, 全国比+34.6p), 中学校は37.5%(全道比+3.7p, 全国比+8.9p)

です。小学校・中学校共に全道・全国を上回りました。特に小学校は昨年度を上回り、授業改善がより進んでいることが伺えます。

11. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

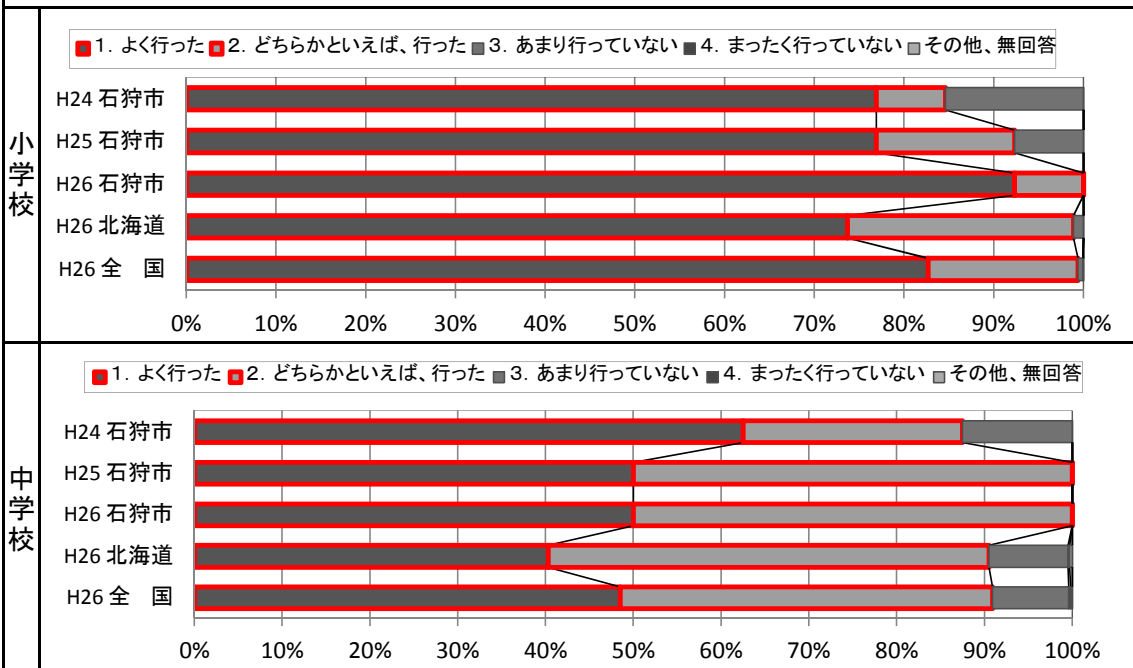


Ⅲ 家庭学習・家庭との連携

家庭学習の重要性と家庭との連携

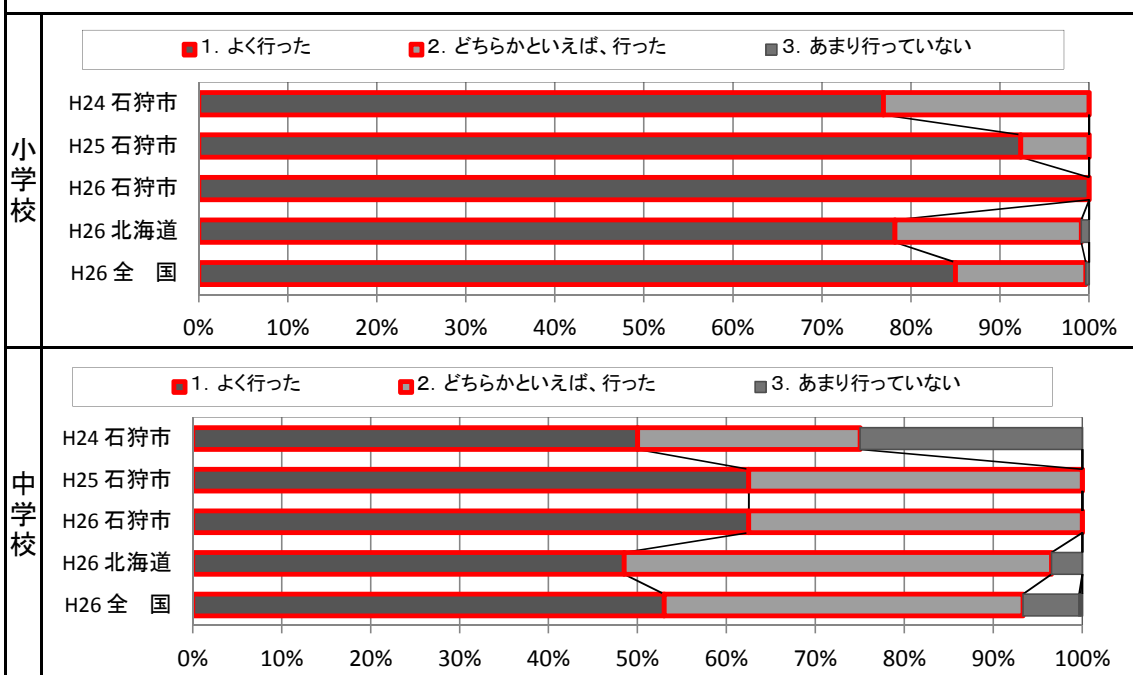
① 国語の指導としての家庭学習の課題(宿題)を出しているのは、小学校で100.0%(全道比+1.1p, 全国比+9.6p), 中学校も100.0%(全道比+9.5p, 全国比+9.1p)です。小学校・中学校共に全道・全国を上回りました。市内各学校で、家庭学習の定着・強化していることが伺えます。

12. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



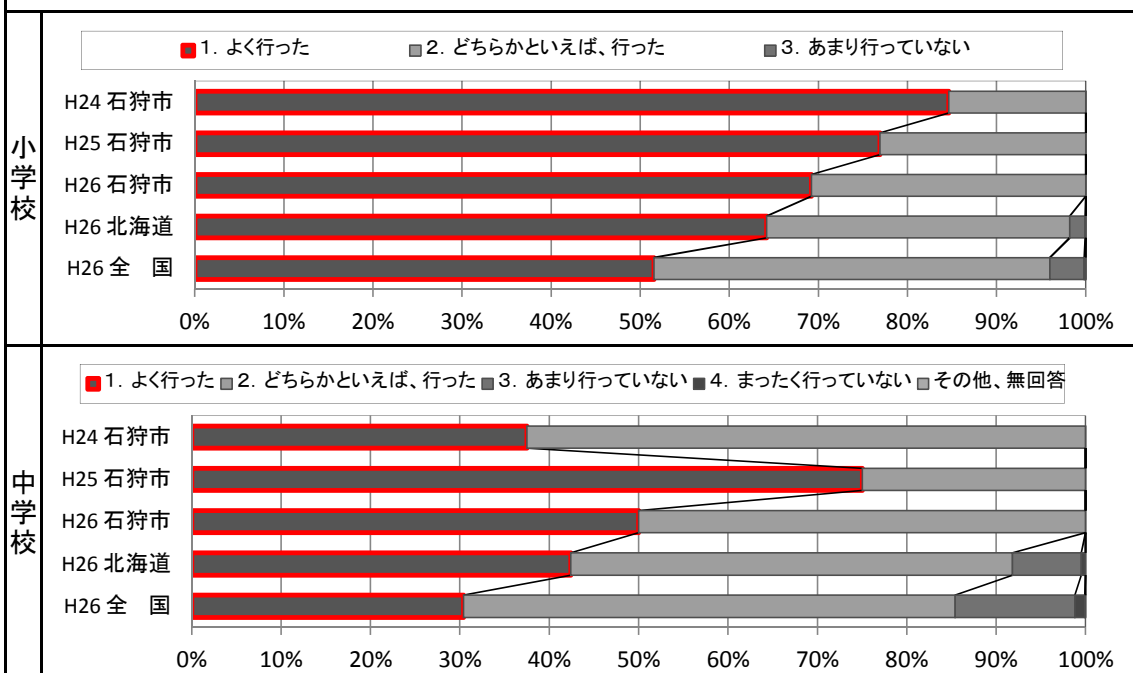
② 算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を出しているのは、小学校で100.0%(全道比+0.9p, 全国比+0.5p), 中学校も100.0%(全道比+3.5p, 全国比+6.7p)です。小学校・中学校共に全道・全国を上回り、昨年度と同様に高い結果となりました。

13. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



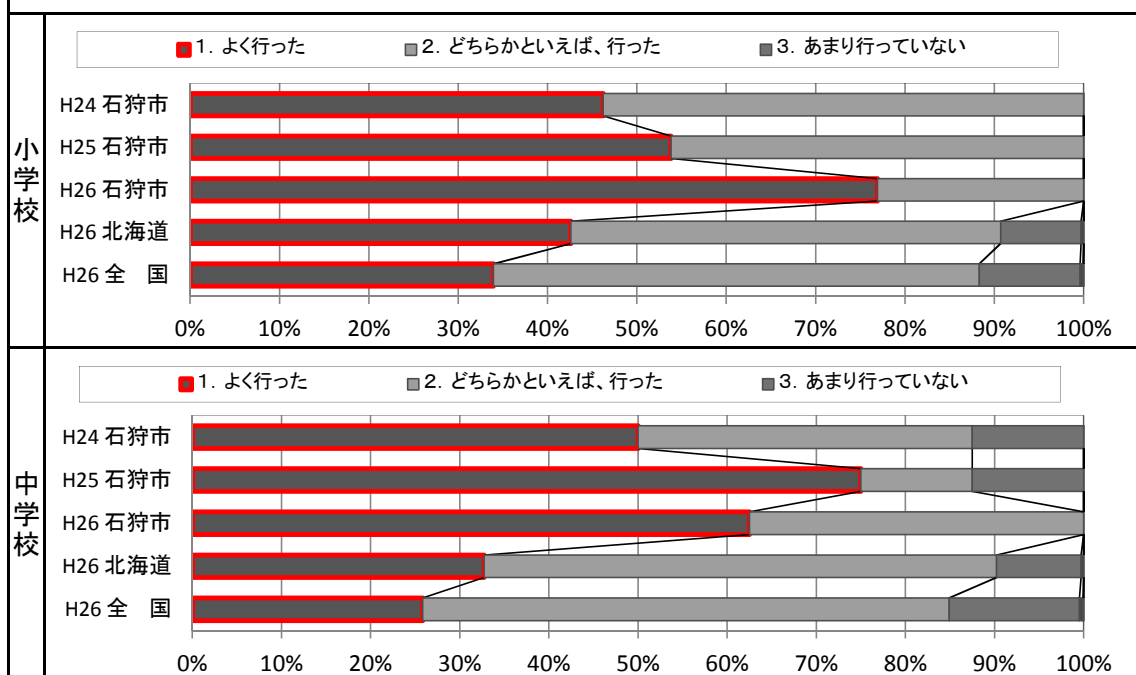
③ 家庭学習を促す働きかけを「よく行った」のは、小学校で69.2%(全道比+5.1p, 全国比+18.2p), 中学校は50.0%(全道比+7.6p, 全国比+19.6p)です。小学校・中学校共に昨年度を下回っていますが、全道・全国平均よりも高い結果となっています。市内各校で、家庭学習を促す取組が継続されていることが伺えます。

14. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(※今年度から国語・算数・数学共通, 昨年度の数値は、国語の場合を示した)。



④ 「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」に対して、「よく行った」のは小学校で76.9%(全道比+34.3p, 全国比+43.0p), 中学校は62.5%(全道比+29.8p, 全国比+36.7p)です。小学校・中学校共に、全道・全国平均より高い結果となっています。特に、小学校の割合が高くなっています。

15. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか(国・算・数共通)



⑤「家庭学習の課題の与え方について、教職員の共通理解を図った」のは、小学校で84.6%(全道比+35.4p, 全国比+45.9p), 中学校は50.0%(全道比+19.2p, 全国比+21.9p)です。小学校・中学校共に、全道・全国平均より高い結果となっています。

16. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する指導として、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図りましたか(※H24, H25:国語の場合)

